

福岡市西区

# 原深町遺跡

(別冊)

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第71集



1982

福岡市教育委員会

福岡市西区

# 原深町遺跡

(別冊)

飯原小学校建設地内遺跡の発掘調査報告書

1982

福岡市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、「原深町遺跡」(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第71集)の別冊である。
2. 原深町遺跡は、福岡市西区大字原字深町にあり、飯原小学校建設に先立って、1979年8月21日から12月20日にかけて発掘調査を実施した。
3. 本書は、原深町遺跡より出土した土器観察表と木製品の樹種同定結果を収録している。
4. 出土土器観察表は、本文冊に記載した272点のすべてにおいて観察し、一覧表とした。表の作製にあたっては、花畑照子氏と溝口博子氏のご協力をえました。
5. 木製品の樹種同定については、九州大学農学部の松本勉先生と林弘也先生に依頼していたもので、両先生のご尽力により今回収録できた。記して感謝の意を表します。
6. 表紙題字は、牧野資一氏よりいただきました。

## 別 冊 目 次

I	出土土器	3
Tab. 1	出土土器観察表(1)	3
Tab. 2	出土土器観察表(2)	4
Tab. 3	出土土器観察表(3)	5
Tab. 4	出土土器観察表(4)	6
Tab. 5	出土土器観察表(5)	7
Tab. 6	出土土器観察表(6)	8
Tab. 7	出土土器観察表(7)	9
Tab. 8	出土土器観察表(8)	10
Tab. 9	出土土器観察表(9)	11
Tab. 10	出土土器観察表(10)	12
Tab. 11	出土土器観察表(11)	13
Tab. 12	出土土器観察表(12)	14
Tab. 13	出土土器観察表(13)	15
Tab. 14	出土土器観察表(14)	16
Tab. 15	出土土器観察表(15)	17
Tab. 16	出土土器観察表(16)	18
Tab. 17	出土土器観察表(17)	19
Tab. 18	出土土器観察表(18)	20
Tab. 19	出土土器観察表(19)	21
Tab. 20	出土土器観察表(20)	22
Tab. 21	出土土器観察表(21)	23
Tab. 22	出土土器観察表(22)	24
Tab. 23	出土土器観察表(23)	25
Tab. 24	出土土器観察表(24)	26
Tab. 25	出土土器観察表(25)	27
Tab. 26	出土土器観察表(26)	28
Tab. 27	出土土器観察表(27)	29
Tab. 28	出土土器観察表(28)	30

## II 原深町遺跡から出土した木製遺物の樹種同定 31

九州大学農学部 林 弘 也  
松 本 昂

Tab. 1	出土木製品一覧表	32
顕微鏡写真		
P L . 1	W 1 W 2 W 3	P L . 8 W 22 W 23 W 24
P L . 2	W 4 W 5 W 6	P L . 9 W 25 W 26 W 27
P L . 3	W 7 W 8 W 9	P L . 10 W 28 W 29 W 30
P L . 4	W 10 W 11 W 12	P L . 11 W 31 W 32 W 33
P L . 5	W 13 W 14 W 15	P L . 12 W 34 W 35 W 36
P L . 6	W 16 W 17 W 18	P L . 13 W 37
P L . 7	W 19 W 20 W 21	

## I 出土土器

本文冊では、土器の実測図と写真のみで、個別土器の観察については、紙数や時間的制約から記載できなかった。ようやく一年後にその責を果たすことになるが、遅延したことを大いに反省している。

- 一凡 例一
- 番号欄の1段目は土器番号、2段目は登録番号、3段目は採回番号、4段目は図版番号である。
  - 遺構・器種の欄は、1段目が発掘区、2段目は遺構、3段目は器種である。器種は埴形土器を埴、豆形土器を豆、鉢形土器を鉢、高杯形土器を高杯、器台形土器を器台のように大別し、略した。
  - 法量欄は、口=口径 体=体部最大径 底=底径(高台径) 高=器高である。
  - 備考欄は、胎=胎土 焼=焼成 色=色調 他=その他である。

番号	遺 器 構 種	法 量 (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
1 153 F 42 —	V 区 大 埴	口、 体、 底、 高。	口縁部は胴部反転部から内傾し てのびる。 口縁端上面は内傾する。	断面三角形の割み目は口縁端部よ り、わずかに下に陥り付けられる。 内外面ともナデ調整。	胎、粗 焼、普通 色、茶褐色 他、全体に遺粒
2 288 F 42 P 70	IV 区 大 埴	口、 体、 底、 高。	外傾する口縁部はやや藍色がめ だつた。 口縁端は丸みがある。	断面三角形の割み目は高く口縁端 部より、下に陥り付け。 内外面ともナデ調整。	胎、粗 焼、普通 色、灰黒色 他。
3 289 F 42 P 70	IV 区 大 埴	口、 体、 底、 高。	口縁部はわずかに外傾し、口縁 端は先鋭くなり、丸みをもつ。	割み目突帯は三角形で口縁部よ り下に陥り付け。 内外面ともナデ調整。	胎、粗 焼、普通 色、外：灰黒色 内：灰黄色 他。
4 157 F 42 —	V 区 大 埴	口、 体、 底、 高。	口縁部は直線的に外傾する。 口縁端内面は内傾する。 割み目突帯は扁平いつくりをな す。	割み目突帯は口縁部に接して下向 きに付けられているが、横ナデで 段がついている。	胎、粗 焼、普通 色、茶褐色 他。
5 287 F 42 P 70	V 区 大 埴	口、 体、 底、 高。	口縁部は内湾ぎみに外傾する。 割み目突帯は断面で角形で口縁 端に接して下向きに陥り付けら れる。	割み目は斜行し幅広い。 外面は横方向のナデ調整。 内面はへら(?)ナデ調整。	胎、粗：100大の砂粒 他、良好 色、外：黒色 内：灰青色 他。
6 301 F 42 —	III 区 1号 埴	口、 体、 底、 高。	口縁部の小破片。 口縁端は内面に先く突出してい る。	割み目突帯は断面作錐形であるが、 うすいつくりをなす。	胎、粗：小砂粒多い 焼、良好 色、茶褐色 他。

Tab 1 出土土器観察表(1)

番号	遺器 構種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
7 285 F42 P70	V 区 大 甕	口、 体、 底、 高。	口縁部はわずかに外傾し、口縁 端内面は、緩やかに内傾してい る。	刻み目突帯は断面三角形に近く、 刻み目は緩く深い。 内面は横ナゲ、外面はナゲ調整。	胎、粗：小砂粒 焼、普通 色、外：灰茶色 内：茶色 他。
8 295 F42 P70	III 区 1号 甕	口、 体、 底、 高。	口内のある口縁部は、わずかに 外傾する。 口縁端部は丸みがある。	刻み目は左下りと斜行しており本 遺跡ではこの1点のみである。 突出部は横ナゲ調整。	胎、粗：1mm程度の砂粒 焼、普通 色、黄茶色 他。
9 283 F42 P70	IV 区 大 甕	口、 体、 底、 高。	器壁の厚い口縁部は外傾し、口 縁端上面は平坦面をつくる。	刻み目突帯は断面三角形できわめ てうすいつくり。 口内面ともナゲ調整。	胎、粗 焼、良好 色、新茶褐色 他。
10 292 F42 P70	IV 区 大 甕	口、 体、 底、 高。	口縁部の小破片。 外傾する口縁部の内面は器状に 保存。	刻み目突帯は下向きに貼り付けら れ、刻み目は深い。	胎、粗：小砂粒 焼、良好 色、外：茶褐色 内：淡茶色 他。
11 304 F42 P70	I 区 甕	口、 体、 底、 高。	口縁部はわずかに外傾する。 口縁部の器壁は厚く、端部に丸 く尖っている。	断面三角形の突帯は、口縁端に接 しているが、下向きに貼り付けら れている。	胎、粗：砂粒少ない 焼、良好 色、茶色 他。
12 291 F42 P70	III 区 7号 甕	口、 体、 底、 高。	口縁部は内傾さみにのび口縁端 内面は内傾している。	刻み目突帯は断面三角形で小さい。 内面はナゲ調整。	胎、粗：1mm程度の砂粒 焼、良好 色、新茶褐色 他。
13 290 F42 P70	V 区 5号 甕	口、 体、 底、 高。	内傾する口縁部に断面三角形の 刻み目突帯が付く。	刻み目は斜行し、すざどい。 外面はナゲ調整。	胎、粗：2mmの砂粒 焼、普通 色、灰黒色 他。
14 282 F42 P70	III 区 甕	口、 体、 底、 高。	断面扇形形の刻み目突帯はうす く、上端に接して貼り付けてい る。	内面は横ナゲ調整。 外面は横の糸痕が見られる。	胎、粗 焼、普通 色、外：灰茶色 内：淡灰茶色 他。
15 286 F42 P70	IV 区 大 甕	口、 体、 底、 高。	断面扇形形の刻み目突帯は、内 傾する口縁部の上端に接して付 けられる。	内面は横ナゲ後に丁寧なナゲ調整。 刻み目は斜行に深い。 外面はナゲ調整。	胎、粗 焼、普通 色、新茶色 他。
16 284 F42 P70	III 区 1号 甕東 甕	口、 体、 底、 高。	口縁部は直線的にのび、口端部 は、わずかに内傾している。 刻み目突帯は小さく扇形をな す。	内面はナゲ調整。 外面は横糸痕が見られる。	胎、粗：砂粒少ない 焼、普通 色、新茶色 他。

Tab 2 出土土器観察表(2)

番号	遺器 構種	法 量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
17 303 F 42 P 70	V 区 大 壺	口、 体、 底、 高	与頸さみどりのびる口縁部上辺は 平坦面をなす。 割み目突帯は三角形で口縁上端 と同じ高さをなす。	突帯の割み目は浅く、やや隙間が ある。	胎、粗：小砂粒 色、普通 色、茶褐色 他。
18 285 F 42 P 70	(V区) 壺	口、 体、 底、 高	口縁部は直立し、上縁は半直線を なす。 割み目突帯は、板状にうすく、 口縁上端に密して貼り付けてい る。	突帯の割み目は浅いが、幅広い。 口縁部は横ナゲ調整。	胎、粗：1mm大の砂粒 色、普通 色、淡茶色 他。
19 294 F 42 P 70	(V区) 甕	口、 体、 底、 高	口縁部は外傾し、端部は丸くお まてている。 割み目突帯は、断面溝線形をな す。	突帯の割み目は深い。 外面はナゲ調整。	胎、粗：砂粒少ない 色、良好 色、淡茶色 他。
20 305 F 42 P 70	I 区 ビ ット 甕	口、 体、 底、 高	割み目突帯は口縁上端に密して 貼り付けられている。 突帯は断面三角形で逆し字形を なす。 口縁部は、ほぼ直立する。	突帯部は横ナゲ調整。 割み目は浅い。	胎、粗：砂粒少ない 色、良好 色、淡茶色 他。
21 302 F 42 P 70	IV 区 5 号 甕	口、 体、 底、 高	口縁部は、わずかに外傾する。 基部目突帯は、口縁上端と同じ 高さに貼り付けている。 突帯の厚さはうすい。	口縁内面を丸く内傾させているた め、口縁断面は丸くなっている。 割み目は深くない。	胎、粗 色、普通 色、茶色 他、全体が焼酎
22 296 F 42 P 70	IV 区 大 甕	口、 体、 底、 高	胴部突帯部である。 割み目のついでで上下を付断し た。 割み目突帯の断面は溝線形をな す。	内面と突帯下部はナゲ調整。 突帯より上部は横の条痕(?)か。 割み目は深い。	胎、粗：砂粒 色、普通 色、茶褐色 他、突帯下部は黒褐色
23 100 F 42 P 70	VI 区 2 号 甕	口、 体、 底、11.2 高	底部くびれ部に割み目突帯を冠 らしている。 底部は八字形に外傾き、上げ底 をなす。	突帯部は割み目後に横ナゲ調整を 加える。 突帯下部は左上りのナゲ、底部端 は横ナゲ、上げ底部はナゲ調整で ある。	胎、粗：砂粒多い 色、普通 色、淡茶色 他。
24 201 F 43 P 71	VI 区 大 甕	口、 体、 底、 高	如意形口縁は上方に小さく突出 する特徴をもつ。 胴部の垂りは小さいようである。 割み目は口縁端部の下部のみにつ けられ、小さい。	口縁部は内外面ともに横ナゲ調整。 胴部はナゲ調整。	胎、粗：小砂粒多い 色、普通 色、淡茶褐色 他。
25 85 F 43 一	IV 区 大 甕	口、 体、 底、 高	口縁部は傾かいが、唇部は強い。 割み目は口縁端部の上部には見 られない。 割み目は歪みではなく斜めにつ けられている。	口縁部は横ナゲ調整。 唇部より下方は内外面ともにナゲ 調整。	胎、粗：小砂粒多い 色、普通 色、外：黒茶色 内：茶褐色 他。
26 233 F 43 P 71	V 区 5 号 甕	口、 体、 底、 高	口縁部の外反は小さく、傾かい。 口縁端部は下方に折りかえして いる。 口縁端部は丸くなっており、そ の中央に割み目を施す。	内、外面ともにハケ目後に横ナゲ 調整。	胎、粗：小砂粒多い 色、普通 色、茶褐色 他。

Tab. 3 出土土器観察表(3)

番号	遠器	構種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
27 138 F 43 —	IV 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	如意形口縁の小破片。 口縁部は上方に小さく突出している。 刻み目は口縁部下部のみに見られる。	内面はナグ調整。 外面は縦のハケ目調整。 刻み目はハケ目後につけられている。	胎、釉：小砂粒多い 洗、普通 色、茶褐色 他。
28 84 F 43 —	IV 3号溝	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	如意形口縁の小破片。 底面はあまり強くない。 刻み目は口縁部下部のみに見られる。	内面は横ハケ目後に横ナグ調整。 外面はナグ調整。	胎、釉：小砂粒 洗、良好 色、茶色 他。
29 155 F 43	IV 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	口縁部的小砂片のため口徑不正。 如意形口縁の外面は背面のため小さな凹凸がある。 刻み目は口縁部の上型には見られない。	内面はナグ調整。 外面は縦のナグ調整。	胎、釉：小砂粒多い 洗、普通 色、赤茶色 他。
30 68 F 43 P 71	V 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	底部より胴部は直線的にのびる。 口縁部は外反しているが胴部はうすい器壁をなす。 口縁部は上方に小さく突出している。	口縁部と胴部調整。 胴部内面は縦ナグ調整。 胴部外面は斜めと縦のハケ目調整である。	胎、釉：砂粒多い 洗、良好 色、黒褐色 他。
31 176 F 43 —	V 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	胴部は底部より外側しながらのび、上部で垂直に近く立つ。 口縁部は直線的に外反する。	口縁部は横ナグ調整のままに刻み目はない。 口縁部内面は横ハケ目、胴部外面は斜めの縦ハケ目調整。	胎、釉：小砂粒多い 洗、普通 色、外：灰茶色 内：黒灰色 他。
32 83 F 43 —	IV 3号溝	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	胴部の外縁大きく、口縁部は緩やかに外側している。 口縁部刻みの刻み目は細く、幅広くつけられている。	口縁部は横ナグ調整。 口縁部の内外面は縦ハケ目調整。 外面には横が付着している。	胎、釉：砂粒多い 洗、普通 色、外：灰茶色 内：茶褐色 他。
33 187 F 43	V 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	胴部は張りはなく、直線的である。 口縁部は大きく湾曲し如意形をなす。	刻み目は口縁部下部のみに見られるが鋭利である。 口縁内面は横ハケ目、外面は縦ハケ目調整。	胎、釉：1mm大の砂粒 洗、普通 色、外：灰茶色 内：暗茶色 他。
34 200 F 43 —	V 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	如意形口縁は型かく引き出されている。 胴部の張りは小さい。	口縁部刻みの刻み目は下端のみに見られる。 口縁内面は横ハケ目をナグ消している。 外面は縦ハケ目をナグ消す。	胎、釉：砂粒多い 洗、普通 色、外：灰茶色 内：茶色 他。
35 91 F 44 —	IV 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	垂りの小さい胴部に如意形口縁がつく。	刻み目は口縁部下端にのみつけられる。 口縁部は横ナグ調整。 胴部は内外面ともナグ調整。	胎、釉：小砂粒 洗、良好 色、外：黒茶褐色 内：茶褐色 他。
36 73 F 44 P 71	V 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 高。	胴部上半部は、やや直立する。 口縁下に沈線1条を巡らしている。 刻み目は口縁部下端にのみつけられるが、小さい刻み目である。	外面の調整は、口縁部の横ナグ、直下の縦ハケ目、胴部の斜行ハケ目、沈線という順である。	胎、釉：砂粒多い 洗、良好 色、茶褐色 他。

Tab. 4 出土土器観察表(4)

番号	遺器	構種	法 量 (cm)	形態の特長	手法の特徴	備 考
37 97 F44 P71	W 大	区 溝 壺	口、14.2 体、 底、 底、	口縁部を欠くが如形をなすのであろう。 口縁下に1条の刻み目文帯を巡らしている。	突舌部は横ナデ。突舌の上下は縦ハケ目調整。 口縁部内面は横ハケ目。 胴部内面はナデ調整。	胎、2mm人の砂粒焼、良好色、暗褐色他。
38 98 F44 P71	W 大	区 溝 壺	口、 体、 底、 底、	胴突舌部の小残片。 2条の突舌は断面三角形で直立する刻み目を施す。	突舌部は横ナデ。下部は縦のハケ目調整。内面は凹凸かめだつ。	胎、瓶：2mm人の砂粒焼、良好色、暗褐色他。
39 119 F44 一	V 大	区 溝 壺	口、24.4 体、 底、 底、	胴部上半はやや内湾し、口縁部は緩やかに外湾する。 口縁部は外側に丸く突出し、刻み目を施す。 口縁下に沈線を通らす。	外面は縦かき縦ハケ目の後に沈線を通らす。 内面は口縁部が横ハケ目で下部はナデ調整である。	胎、小砂粒多い焼、良好色、外：灰青色内：黒茶色他。
40 78 F44 一	W 大	区 溝 壺	口、23.8 体、 底、 底、	底部から胴部は内湾しながらのびる。 口縁外縁部には断面三角形の粘土を貼り付け、上面に平道面をつくる。	口縁下に断面三角形突舌を1条通らす。 口縁部と突舌には刻み目を施す。 外面は縦ハケ目調整。	胎、瓶：小砂粒多い焼、良好色、茶褐色他。
41 108 F44 P71	W 大	区 溝 壺	口、29.4 体、 底、 底、	胴上半は直線的に内湾し、逆L字形の口縁部をつくる。 口縁外縁には直立する刻み目を施す。	口縁内面は横ナデで調整をなす。 胴部外面は縦のナデ調整。	胎、密：2mm大の砂粒焼、良好色、赤茶色他。
42 101 F44 P71	W 大	区 溝 壺	口、26.8 体、 底、 底、	胴部最大径は中位よりやや上にある。 胴上半部はわずかに内湾し、逆L字形の口縁部がつく。 口縁下に断面三角形の突舌。	逆L字形の口縁外縁は下方に垂れきみて、胴部に刻み目を施す。 胴部外面は縦のハケ目調整。	胎、瓶：小砂粒多い焼、良好色、灰茶色他。
43 107 F45 P72	W 大	区 溝 壺	口、24.5 体、 底、 底、	逆L字形の口縁部で、内湾する。 口縁部内端は丸みがある。 胴部最大径よりも口径は大きい。 口縁下に断面三角形の突舌。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面は左上りのナデ、外面は縦ハケ目後にナデ調整。 外面は砂粒露出する。	胎、小砂粒多い焼、良好色、赤茶色他。
44 32 F45 一	W 大	区 溝 壺	口、26.6 体、 底、 底、	口縁部は逆L字形で、上面の内端は小さく水平に近い。 口縁部内端は横ナデまたは即状となる。 口径は胴部最大径より小さい。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面は原のナデ、内面はナデ調整。 内外面ともに砂粒露出。	胎、砂粒を含む焼、良好色、茶褐色他。
45 236 F45 一	W 大	区 溝 壺	口、30.4 体、 底、 底、	胴部上半は直線的に内湾し、逆L字形の口縁部がつく。 口縁上面の内湾は大きい。	口縁部は横ナデ調整。 他は磨耗し不明。	胎、瓶：小砂粒多い焼、普通：やや軟質色、茶色他。
46 106 F45 P72	W 大	区 溝 壺	口、32.0 体、 底、 底、	胴部上半はややかに内湾してのび、逆L字形の口縁部がつく。 口縁部内端は丸く小さく突出する。	口縁部は横ナデ調整。 胴部内面はナデ調整。外面は縦ハケ目を横ナデ磨し。	胎、密：砂粒少焼、良好色、茶色他。

Tab. 5 出土土器観察表(5)

番号	遺器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
47 110 F 45 P 72	V 区 大 甕 体	口、34.6 体、 底、 底、7.2 高、	胴部の唇部はうすいが、逆し字 形の縁部は肥厚している。 口縁部内端は縁がつく。	口縁直下は強く横ナゲされ凹状と なる。 胴部外側は縁のハケ目後にナゲ 調整を加える。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、淡茶色 他、
48 211 F 45 —	V 区 大 甕 体	口、 体、 底、7.2 高、	平底の底部で、中央部がわずかに 窪む。 胴部へは外巻して移行する。	胴部外側は縁のハケ目、内側はナゲ 調整。 底部外縁は横ナゲ調整。	胎、砂粒多い 焼、良好 色、外：灰茶色 内：灰黒色 他、
49 28 F 45 —	V 区 大 甕 体	口、 体、 底、6.8 高、	上げ底の底部から内巻して胴部 がのびる。	胴部外側は縁のハケ目、内側は砂 粒露出し不明。	胎、小砂粒多い 焼、良好 色、外：赤茶色 内：灰茶色 他、本文書のV区に誤り
50 136 F 45 P 72	V 区 大 甕 体	口、 体、 底、7.0 高、	上げ底は深く、胴部への移行部 はよくしまっている。	胴部外側は縁のハケ目、内側はナゲ 調整。 上げ底は横押え。	胎、小砂粒を含む 焼、良好 色、灰茶色 他、
51 44 F 45 P 72	I 区 直壁砂土 壺	口、 体、 底、9.4 高、	底部は厚いつくりで、上げ底は 浅い。 胴部への移行部はよくしまる。	上げ底は横押え。	胎、1cm大の砂粒多い 焼、良好 色、茶色 他、
52 45 F 45 P 72	I 区 ビット 壺	口、 体、 底、7.8 高、	底部の小破片。 上げ底は1.5cmと深い。 胴縁合部より割裂している。	外側は縁のハケ目にナゲ削し。 上げ底は横押え。	胎、小砂粒を含む 焼、良好 色、淡茶色 他、
53 220 F 45 —	V 区 大 甕 体	口、 体、 底、7.4 高、	上げ底の底部は、直立し、胴部 への移行部はくびれていない。	内外面ともナゲ調整。 全体的に磨耗している。	胎、1cm大の砂粒多い 焼、良好 色、赤色 他、
54 254 F 45 P 72	V 区 大 甕 体	口、 体、 底、8.2 高、	上げ底は3.5cmと深く、台状の つくりをなす。 胴部へは緩やかに内巻しながら のびる。	底端部から内部へかけては横ナゲ 調整。 くびれ部は縁のハケ目調整。	胎、小砂粒多い 焼、良好 色、茶褐色 他、
55 27 F 45 P 72	III 区 壺	口、 体、 底、7.4 高、	底部は厚さ4cmあり、きわめて 厚いつくりをなす。 底端部は面取りし、中央部はわ ずかに窪む。	胴部は縁のハケ目調整。 くびれ部は横ナゲ、底面部はナゲ 調整。	胎、小砂粒多い 普通 焼、外：灰茶色 内：黒茶褐色 他、
56 259 F 45 P 72	V 区 大 甕 体	口、 体、 底、7.4 高、	平底から胴部は緩やかに外巻し ながらのびる。 底端は焼成前に穿孔されている。	胴部外側は縁のハケ目、内側はナゲ 調整。	胎、小砂粒を含む 焼、良好 色、外：茶色 内：茶褐色 他、

Tab. 6 出土土器観察表(6)

番号	器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
57 114 F46 P73	Ⅵ 大 甕	口、26.0 体、 底、 高、	張りのない胴部に逆L字形の口縁部がつく。 口縁内端には縁がつく。 口縁以下には断面三角形の突起が走る。	胴部内面はナゲ調整であるが凹凸がめだつ。 口縁部から突帯部は横ナゲ、突帯下は縦のハゲ目調整。	胎、密 変、堅硬 色、灰茶色 地、
58 112 F46 P73	Ⅵ 大 甕	口、26.4 体、 底、 高、	口縁部の小葉片。 逆L字形の口縁部内面は小さく突出する。口縁上縁は、平坦で丸味する。 口縁下の断面三角形突起はするどい。	口縁部は横ナゲ調整。 内面はナゲ調整。	胎、密；砂粒少 地、堅硬 色、灰茶色 地、
59 104 F46 P73	Ⅵ 大 甕	口、32.2 体、 底、 高、	胴体上半は内湾し、やや厚めの逆L字形口縁がつく。 口縁より胴部最大径が大きく胴部膨らみとなる。 口縁下に断面三角形突帯を流らす。	突帯の上は縦のハゲ目、口縁上縁は横ナゲ目し。 内面はナゲ調整。	胎、粗；砂粒多い 地、良好 色、灰茶色 地、
60 129 F46 P73	V 大 甕	口、37.6 体、 底、 高、	胴体上半は直線的にのみ丸味する。 口縁内端の突出はなく、外端は丸みがなく、断面方形をなす。 口縁下に断面三角形の突帯を流らす。	突帯の上下は縦ハゲ目後に横ナゲを加える。 口縁外端は斜行する細い刻み目を施す。	胎、密；小砂粒 地、良好 色、茶褐色 地、
61 113 F46 P73	Ⅵ 大 甕	口、41.4 体、 底、 高、	直線的に内湾する胴部に断面長方形の粘土帯を貼付けて逆L字形の口縁部をつくる。 口縁外端は刻み目を施し、直下に断面三角形突帯を流らす。	口縁外端の調整は、横ナゲ、沈降、刻み目の頂である。 突帯は小さいことから、2条となるか？	胎、密 地、堅硬 色、灰茶色 地、
62 237 F46 P73	V 大 甕	口、42.0 体、 底、 高、	胴部に張りはなく、口径は胴部最大径より大きい。 口縁下に断面三角形の突帯を2条流らす。	口縁外端は刻み目と同じような刻み目を施す。 突帯の上下は縦のハゲ目後に横ナゲ調整を加える。 内面はナゲ調整。	胎、密；小砂粒 地、良好 色、外：灰茶色 内：灰茶褐色 地、
63 111 F46 P73	Ⅵ 大 甕	口、42.8 体、 底、 高、	胴体上半は外湾しながらの口、口径と胴部最大径とは、ほぼ等しい。 口縁外端は丸みがあり、内端はするどい縁をなす。	口縁直下に断面三角形突帯が2条走る。 突帯上下は縦ハゲ目後に横ナゲ目し。	胎、密；砂粒少 地、普通 色、灰茶色 地、
64 299 F47 P74	Ⅵ 大 甕	口、 体、 底、 高、	唇の肩部で、肩部の一部がのこる。 頸部への移行は明瞭な段をなさない。	頸部との間に2条の沈降を流らし、3段(?)以上の羽状文を施す。 外面は横ナゲ調整、内面は斜行露出する。	胎、密；1mm大の砂粒 地、堅硬 色、灰茶色 地、
65 118 F47 P74	V 大 壺	口、 体、20.8 底、 高、	球状をなす胴部の破片。 羽状文は細かい横の磨き。 内面上部は強く横ナゲ、下部は、右上りのナゲ調整。	羽状文はするとく2線以上になりう。 胴部外面は細かい横の磨き。 内面上部は強く横ナゲ、下部は、右上りのナゲ調整。	胎、1mm大の砂粒多い 地、普通 色、外：灰色 内：茶褐色 地、
66 154 F47 P74	V 大 壺	口、 体、 底、 高、	66-69は文様帯の小葉片。 羽状文で無軸である。		胎、小砂粒を含む 地、普通 色、茶色 地、

Tab. 7 出土土器観察表(7)

番号	遺器種	法量 (ca)	形態の特徴	手法の特徴	備考
67 117 F47 —	V 区 大 甕 壺	口 体 底 高	羽状文はよく塗っていない。 有輪である。	内面はナデ調整。	胎 粗：2mm大の砂粒多い 焼 普通 色 灰茶色 他
68 300 F47 P74	V 区 大 甕 壺	口 体 底 高	羽格子文で右下りの輪が後に施す。 新格子の上には2条の沈線を通らす。	内面はナデ調整。	胎 密：1mm大の砂粒 焼 普通 色 他
69 298 F47 P74	VI 区 大 甕 壺	口 体 底 高	断面扇状の小さな尖帯を施らし、その上段に貝殻縁で施文する。	内面はナデ調整。	胎 密：小砂粒 焼 良好 色 灰茶色 他
70 238 F47 —	II 区 ビット 蓋	口 12.0 体 底 高	口縁部のみであるが、球形の胴部がつくのであろう。 胴部は直立し、口縁部は水平近く小さく引き出す。 底部下端に断面三角形尖帯を施らす。	内面は粗いヘッケ目をナデ消す。 外面は肩のヘッケ目。 口縁部と尖帯部は横ナデ調整。	胎 粗：小砂粒多い 焼 普通 色 茶色 他
71 306 F47 —	V 区 大 甕 壺	口 18.4 体 底 高	口縁部は扇状に開くが、縁部はぐく直立きみ。 口縁部内面に断面三角形の粘土を貼り付け平坦な縁上面をつくる。	口縁部外面と上唇部はヘッケ目を横ナデ消し。 内面は粗かい横のヘッケ目。	胎 密：砂粒少 焼 良好 色 灰茶色 他
72 23 F47 —	III 区 壺	口 20.2 体 底 高	口縁部の小破片。 平直な口縁部の先端は丸みをもつ。外端部には刻み目なし。	内外面とも横ナデ調整。	胎 小砂粒多い 焼 良好 色 茶褐色 他
73 128 F47 —	V 区 大 甕 壺	口 23.8 体 底 高	胴部は直立きみにの上段で急に外湾する。 上面に粘土帯を貼り付け平盤部をつくる。	口縁外端部に直立する刻み目を施す。 外面はナデ調整。 口縁部と内面は横ナデで丁寧な調整を施している。	胎 密：小砂粒 焼 普通 色 茶色 他
74 208 F47 —	V 区 大 甕 壺	口 28.8 体 底 高	口径の大きい広い口蓋口縁部である。 口縁部は頸部より大きく外湾し、頸部内面に断面三角形の粘土を貼り付け、上面は外断する。	口縁部は横ナデ調整。 頸部内外面はナデ調整。	胎 粗：小砂粒多い 焼 普通 色 茶色 他
75 203 F48 —	VI 区 大 甕 壺	口 23.6 体 底 高	く字形の口縁部は、わずかに内湾しながらのびる。 口縁部部は外断し、上面はやや凹状となる。 断面内面は丸みがある。	口縁部内面は横ヘッケ目を横ナデ消し。 胴部内面はヘウ削り、断面内面はナデ上げ。	胎 密：小砂粒多い 焼 良好 色 外：茶褐色 内：茶色 他
76 212 F48 —	V 区 大 甕 壺	口 28.0 体 底 高	口縁部はく字形に外断する。 口縁内面は上方に小さく突出し、上面は外断する。 断面内面は丸みを欠く。	胴部内面は右上のヘウ削り、外面はヘッケ目調整。 口縁部内面は横ヘッケ目に横ナデを加える。	胎 密：砂粒少 焼 良好 色 灰茶色 他 口縁部黒焼

Tab. 8 出土土器観察表(8)

番号	遺器 構種	法 最 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
77 267 F 48 P 74	Ⅵ 区 大 溝 壺	口、23.6 体、28.6 底、 高、34.8	胴部形の割型にく字形の口縁部がつく。 底型は小さな丸底をなす。 口縁部はわずかに外湾しながらのび口端上面は凹状をなす。	胴部外面のハケ目は数回くりかえしている。 内面はも上りのヘラ削りで全体のじりである。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、茶色 他、外面に砥目着
78 268 F 49 P 75	V 区 2号 溝 壺	口、21.6 体、27.8 底、 高、	胴部は長球形で頸部はよくしまる。 口縁部は外湾さみにのびる。 底面は内面に接をもつ。	内外面とも細かいハケ目。 胴部外面は細かい叩きの後にハケ目を加える。 口縁部はハケ目を横ナゲ消し。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、灰茶色 他、
79 79 F 49 —	Ⅵ 区 大 溝 壺	口、16.4 体、 底、 高、	く字形に外反する口縁部は外湾しながらのび、端部は先細くなる。 底面内面は接をなす。	内面は横ハケ目で、底面より約2cm下よりヘラ削り。 胴部外面は上りの細かい叩き。	胎、密：小砂粒多い 焼、良好 色、暗茶褐色 他、
80 81 F 49 —	Ⅵ 区 大 溝 壺	口、15.2 体、 底、 高、	器壁のうすいつくりで、頸部はよくしまる。 口縁部は微妙に湾曲しながらのび、口端部は上方に小さく突出している。	口縁部内外面はハケ目を横ナゲ消し。 胴部外面は細かい叩き。 内面はヘラ削り、後に縦のナゲを加える。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、灰茶色 他、
81 272 F 49 P 75	Ⅵ 区 大 溝 壺	口、14.8 体、22.4 底、 高、25.2	球状の胴部にやや入りまみの底面がつく。 口縁部は、頸部から直立してのび上部で大きく外反する。 口縁端部は上方に小さく突出する。	胴部上半部には粗い叩き痕があり、その上を細かいハケ目調整。 下部は滑り風に変化が見られる。 胴部内面はハケ目調整。 口縁部は細かいハケ目を横ナゲ消し。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、灰茶色 他、
82 74 F 50 —	V 区 2号 溝 壺	口、17.0 体、 底、 高、	く字形口縁部は原形内面に接をもつて外反する。 口縁中位でさらに湾曲し、口縁端部は上方に小さく突出する。	胴部内面は原形よりも上りのヘラ削り、外面は細かいハケ目調整。 口縁部は横ナゲ調整。	胎、密：小砂粒多い 焼、良好 色、灰茶色 他、
83 F 50 —	V 区 2号 溝 壺	口、17.2 体、 底、 高、	口縁部は直線的に外反し、口端部を丸くおさめる。 胴部内面は丸みがあり、肥厚している。	口縁部内外面は横ナゲ調整。 胴部内面はも上りのヘラ削り。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、灰茶色 他、
84 87 F 50 —	V 区 2号 溝 壺	口、13.6 体、 底、 高、	く字形口縁部は外湾しながらのび、端部は外反する。 底面外面は横ナゲされよくしまる。	底面部のやや下より右方向（時計まわり）のヘラ削り。 口縁部は内外面ともに横ナゲ調整。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、灰茶色 他、
85 198 F 50 —	V 区 2号 溝 壺	口、15.6 体、 底、 高、	口縁部は外湾しながらのび、く字形口縁をなす。	口縁部内外面は横ナゲ調整。 胴部内面は原形部のやや下より右のヘラ削り。	胎、密：小砂粒少ない 焼、良好 色、茶色 他、
86 93 F 50 P 76	V 区 2号 溝 壺	口、14.8 体、 底、 高、	口縁部は直線的に外反し、口端部は水平に近い平坦面をつくる。	口縁部は横ナゲ調整、底面内面はナゲ上げ。 胴部内面は原形部のやや下より右のヘラ削り。	胎、密：小砂粒少ない 焼、良好 色、灰茶色 他、

Tab. 9 出土土器観察表(9)

番号	造器 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
87 131 F50 —	(V) 大 甕 甕	口、17.2 体、 底、 高、	口縁部は外湾しながらのびるが 器底が大きい。 口縁部は上方へ小さく突出し、 外傾する。	屈曲部内面は丸みがありナメ調整。 胴部内面はヘラ削りを加える。	胎、密： 胎、密：砂粒少 色、良好 茶色 他、
88 76 F50 —	Ⅵ 区 2号 甕 甕	口、17.4 体、 底、 高、	胴部上半は直線的に内傾し、よく しまった器底となる。 口縁部は外湾しながらのび、口 縁部は外傾する。	口縁外縁は下方に小さく突出する。 胴部外面は細かい横のハケ目調整。 内面は屈曲部の約2cmより右上 りのヘラ削り。	胎、密 胎、密：良好 色、灰茶色 他、
89 90 F50 —	Ⅵ 区 2号 甕 甕	口、16.0 体、 底、 高、	88と同じように、輪郭はよくし まる。 外傾する口縁部は平坦面をつく らず、丸みがある。	胴部内面はヘラ削り。 胴部上半には横面による波状文を 添らす。	胎、密： 胎、密：小砂粒 色、良好 茶色 他、
90 46 F50 —	Ⅱ 区 1号 甕 甕	口、13.8 体、 底、 高、	口縁部はわずかに外湾しながら のびる。	高曲部内面は丸く、直下からヘラ 削りされる。 胴部外面はナメ、口縁部は横ナメ 調整。	胎、密： 胎、密：砂粒少 色、良好 茶色 外、内：灰茶色 他、
91 308 F50 —	Ⅲ 区 甕 甕	口、17.0 体、 底、 高、	口縁部は直線的に外反し、口縁 部は先細りおさめている。内面 はわずかにへこむ。	胴部外面は縦のハケ目、内面はヘ ラ削りで、方向は統一されていない。 屈曲部内面はナメ調整。	胎、密： 胎、密：砂粒 色、良好 茶色 外、内：赤茶色 黒色 他、
92 257 F50 P76	V 区 大 甕 甕	口、15.6 体、20.8 底、 高、	球形の胴部にく字帯口縁部がつ く。 器底部外面は丸みがある。 全体的にうす手のつくりをなす。	胴部内面はヘラ削り。 外面は下半部が縦のハケ目、上半 部は横ハケ目で横面の波状文を添 らす。	胎、密 胎、密：良好 色、茶褐色 他、下半部は保存者
93 65 F50	V 区 大 甕 甕	口、18.8 体、 底、 高、	外湾してのびる口縁部は細く、 口縁部は上方に小さく突出す る。 胴部上半に横面の波状文を添 らす。	器底部は横押し後にナメを施え る。ヘラ削りは器底部より約2.5 cmより右方向に削る。 口縁部内外面は横ナメ調整。	胎、密： 胎、密：小砂粒 色、良好 茶色 灰茶色 他、
94 159 F50 P76	V 区 大 甕 甕	口、14.6 体、18.6 底、 高、	胴部はやや直立きみに傾くのみ、 口縁部へ続く。	胴部内面上半は右上りのヘラ削り、 下半は左上りのヘラ削りである。 胴部外面は縦、横ハケ目で、上半 部に横面の波状文を添らす。	胎、密 胎、密：良好 色、茶色 他、
95 406 F51 P77	Ⅲ 区 1号 甕 甕	口、36.8 体、 底、 高、	二重口縁部をもつ大型の甕や胴 部下半を欠く。 胴部はあまりしきらず、外湾し、 直立する口縁部がつく。 口縁部上半は小さく突出して いる。	胴部上半から器底にかけて横面状 工具による文様帯をもつ。文様帯 の下部はハケ目をナメ削っている。 胴部内面もハケ目をナメ削す。 器底内面は左方向の削り。	胎、密 胎、密：良好 色、茶色 他、
96 314 F51 —	V 区 大 甕 甕	口、68.4 体、 底、 高、	胴部上半のみは横片。 左右向き輪郭状文の文様帯をも つ。	文様帯の調整は縦のハケ目、横の ナメ削り、文様という様である。 文様帯の下部は横ハケ目後に縦の ハケ目を加える。 内面は左方向のヘラ削り。	胎、密： 胎、密：小砂粒 色、良好 茶褐色 他、調整は丁寧

Tab.10 出土土器観察表(3)

番号	遺器 分類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
97 273 F52 P78	V 区 大 溝 立	口、30.4 底、50.0 高、	頸部の頸部によく似た直立する頸部がつく。口縁部は外反し、さらに直立する二重口縁をなす。 口縁上縁部は外反し、下縁部は下方に垂れ下がる。	口縁部は横ナゲ、頸部外縁は細かい波状の横ナゲ調整。頸部内面は横ナゲ目後に横ナゲ調整。 胴部内面は左上りのヘリ削り状のナゲ後に横ナゲ目調整。外面は縦のヘリ目、並列がみられる。	胎、密：小砂粒 色、灰褐色 他、
98 95 F52 —	V 区 大 溝 立	口、 体、 底、 高、	丸底の底面、胴部接合部より割れている。	内面は斜めのヘリ目調整。 外面はナゲ調整。	胎、密：小砂粒 色、灰褐色 他、外玉に黒斑
99 273 F52 —	V 区 大 溝 立	口、 体、 底、 高、	大丸底の底面で大丸底をなす。胎土、色調、焼きともに97に類似している。	内面は縦のヘリ目調整。底面内面はナゲ調整。 外面は縦のヘリ目後に細かい斜めのヘリ目調整。底面外縁はヘリ目をナゲ削している。	胎、密：小砂粒 色、灰褐色 他、
100 152 F52 P79	V 区 大 溝 立	口、 体、 底、 高、	上半部を欠いているため全形を知らないが、土の類別と考えた。 頸部は直立し、口縁部は外反しているが、外面に断面三角形に突出し、二重口縁をなす。	頸部外縁は細かい横のヘリ削り。 胴部内面は時計まわりのヘリ削り。 口縁部内面には凹線状の胎文具による波状文がある。	胎、砂粒多い 色、黄褐色 他、
101 177 F52 —	V 区 大 溝 立	口、 体、 底、 高、	二重口縁部の頸部と思われる部分である。 頸部は100のように直立せず、十度で逆向し外反する。 口縁部はほぼ垂直に立つ。	胴部内面は左方向のヘリ削り。 底の部分に横ナゲ調整。	胎、密：1mm大の砂粒 色、良好 他、赤褐色
102 151 F52 P79	V 区 大 溝 立	口、 体、 底、 高、	頸部と胴部の一部の胎文のため二重口縁になるかは判断できない。 胴部への移行は内面に残をもち、	胴部内面はヘリ削り。 頸部に内外面とも横ナゲ調整。 胴部内に凹線状の胎文具があり、羽状文をなすのであろう。	胎、密：濃砂粒 色、良好 他、赤褐色
103 89 F52 —	V 区 3号溝 立	口、 体、 底、 高、	103-105は小片片で残りが不正確であるが、帯の頸部と判断した。 右向き羽状文は凹線状の胎文具による。	外縁はナゲ調整。 内面は逆時計まわり（左方向）のヘリ削り。	胎、密：小砂粒 色、普通 他、赤褐色
104 96 F52 P79	V 区 3号溝 立	口、 体、 底、 高、	103と同様に凹線状の胎文具で羽状文をつけるが、互い違いとなっている。	外面はナゲ調整。 内面はヘリ削りで、左、右とり、左下り方向をくりかえす。	胎、密：小砂粒 色、良好 他、赤褐色
105 116 F52 P79	V 区 大 溝 立	口、 体、 底、 高、	103・104に比べ器壁は厚い。 凹線状胎文具による羽状文は左向きである。	内面はナゲ調整。 外面もナゲ調整であるが、羽状文は横ナゲで凹線状をなし、羽状文の斜めのような効果を出している。	胎、密：小砂粒 色、良好 他、外：赤褐色 内：黄褐色
106 167 F53 —	V 区 大 溝 立	口、22.0 体、 底、 高、	胴部下半を欠く。 胴部の張りには上部がなく、球形をなすのであろう。 頸部はあまりしぼみならず、二重口縁がつく。	二重口縁部は横ナゲ調整。 胴部外縁は横ナゲ目をナゲ削す。 内面はヘリ削り後にナゲを加える。	胎、2mm大の砂粒多 色、普通 他、灰褐色

Tab. 11 出土土器観察表(1)

14 出土土器観察表

番号	遺器 種類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
107 269 F53 P80	V 区 大 溝 壺	口. 27.0 体. 33.3 底. 高. 41.1	胴部形の剛度が不安定で小さな底足がつく。 頸部はよくしまり、直線的に外縁する口縁がつく。 口縁部と胴部に小さく突出し、上面は平削に近い。	口縁部から胴部にかけては横ナゲ調整、胴部内面は横のへり削りで下半部はハゲ目を加える。 外面は横ハゲ目後に縦ハゲ目、胴部には10本集の波状文を施す。	胎. 密；小砂粒 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
108 265 F54 P76	V 区 大 溝 壺	口. 22.6 体. 25.8 底. 高.	頸部は小さく外巻し、直線的に外縁する口縁部がつく。 胴部の最大径は中位にある。	頸部と胴部との接合部内面は強く横ナゲされ凹状となる。 胴部外面は横のハゲ目を横ナゲ削し、内面は左方向のへり削り。	胎. 砂粒多い 焼. 良好 色. 深灰茶色 他. 磨耗すすむ。
109 400 F54 P80	V 区 大 溝 壺	口. 27.6 体. 31.1 底. 高. 32.6	胴部は胴部形をなし、頸部のくびれは大きくない。 口縁部は1筋に比べさらに立ち上がり、口端部は外巻する。	胴部内面は上半が右方向のへり削り、下半は左方向のへり削り。 外面は上半が横ナゲ、下半は新しいハゲ目で左から右の順に調整する。	胎. 小砂粒多い 焼. 良好 色. 黒灰茶色 他. 調整1家
110 204 F55 P79	V 区 大 溝 壺	口. 26.0 体. 底. 高.	二重口縁部の破片。 外傾する口縁部は短く、中位でさらに屈曲する。	口縁部外面に竹管文が1筋見られる。 口縁部は内外面ともに横ナゲ調整。	胎. 密；粗砂 焼. 良好 色. 茶色 他.
111 161 F55 P79	V 区 大 溝 壺	口. 22.6 体. 底. 高.	頸の二重口縁部と考えたが、へり磨きを施すなど他例に比べやや特徴である。 口縁部はわずかに外巻して、大きく開く。	口縁部は横ナゲ後、上下のへり磨きを加える。 胎土、後成ともないへん良好。	胎. 密；粗砂少 焼. 良好 色. 黒灰茶色 他. 調整丁寧
112 239 F55 —	II 区 1号溝 壺	口. 27.4 体. 底. 高.	頸部は半球状に凸出し、上面は水平に近い。 口縁部の外巻は大きく、口端部は丸くおさまる。	口縁と頸部との接合部外面は小さく突出し、内面は強く横ナゲされ凹状をなす。 頸部内面の横ハゲ目はナゲ削し。この下部はナゲ上げ調整。	胎. 密；小砂粒 焼. 良好 色. 茶褐色 他. 調整丁寧
113 48 F55 P79	III 区 2号溝 壺	口. 19.6 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 頸部下半を欠くが、上半は長くのびる。 口縁部との接合部外面は下方に垂れさみに突出する。	口端部は丸くおさまっている。 外面は横ナゲ調整、内面はナゲ調整。	胎. 密；精良 焼. 良好 色. 灰黄色 他. 調整1家
114 225 F55 —	V 区 大 溝 壺	口. 20.4 体. 底. 高.	口縁部の小破片。 口縁部は短く、口端部は内、外側に小さく突出する。	内外面ともに横ナゲ調整。	胎. 砂粒多い 焼. 良好 色. 灰黄色 他.
115 25 F55 —	III 区 1号溝 壺	口. 24.6 体. 底. 高.	頸部の両面は傾かない。 口縁部の立ち上りは大きく口端部は小さく引き出され、丸くになっている。	口縁部内面と頸部外面は横のハゲ目調整後に横ナゲを加える。 胴部内面は右方向のへり削り。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰黄色 他. 調整1家
116 67 F55 —	V 区 大 溝 壺	口. 15.6 体. 底. 高.	口径の小さな二重口縁部で、口縁部と頸部との接合部は外側に小さく突出する。 口端部は平起底をつくり外巻している。	頸部外面は横ハゲ目を、横ナゲ削し。 口縁部内外面は横ナゲ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰黄色 他. 内面の調整は確

Tab. 12 出土土器観察表(1)

番号	遺器 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
117 168 F55 —	V 区 大 壺	口. 16.0 体. 底. 高.	118と同じような特徴をもつ。 口縁部は平坦面をつくらず丸みがある。	頸部内面はナゲ上げ、外面は腹の ヘタ目を横ナゲ削し。	胎. 密: 砂粒少 胎. 堅緻 色. 灰茶色 胎.
118 207 F55 —	V 区 大 壺	口. 32.4 体. 底. 高.	二重口縁部をもつが壺ではなく 甕であろう。 頸部は小さく両面し、口縁部は 両面的のびる。	口縁部は横ナゲ調整。 頸部内面はナゲ上げ、胴部内面は ヘリ削りであるか方向不明。	胎. 密: 砂粒少ない 胎. 良好 色. 灰茶色 胎.
119 260 F56 P81	VI 区 大 甕	口. 19.6 体. 底. 高.	球形の胴部に十字形の口縁部が つく。 口縁部はまばらになる。	内外面とも横ハゲ目後に横ナゲ を加える。	胎. 密: 小砂粒 胎. 良好 色. 外: 赤茶色 内: 灰茶色 胎.
120 218 F56 —	V 区 大 甕	口. 15.4 体. 底. 高.	口縁部は直立きみにのび上平で わずかに外凸し開く。	口縁部内面は横ナゲ後ナゲ上げ。 外面は横ハゲ目後に横ナゲを加え る。 胴部外面はナゲ、内面はヘタ目を ナゲ削す。	胎. 密: 小砂粒 胎. 良好 色. 暗灰茶色 胎.
121 271 F56 P81	V 区 大 甕	口. 39.6 底. 6.5 高.	球形の胴部に不安定な底部がつ く。 頸部への移行部は横は丸みなく丸 みがある。	胴部外面はヘタ目調整で、上半部 はナゲ削される。 調整は丁寧である。	胎. 密: 砂粒少 胎. 良好 色. 外: 灰茶色 内: 茶褐色 胎.
122 82 F57 P82	VI 区 2号 甕	口. 16.4 体. 底. 高.	頸部上部で明確な横をもち、口 縁部は外反する。 口縁部の外傾は大きい。	内外面ともヘタ目後に横ナゲ調整。 胴部内面はナゲ。	胎. 密: 砂粒少 胎. 良好 色. 灰茶色 胎.
123 37 F57 —	II 区 1号 壺	口. 16.4 体. 底. 高.	五口壺の口縁部破片。 口縁部は与面に突出し、上面は 外傾している。	口縁外面は横ハゲ目を横ナゲ削し。 底面内面の横は丸みをもつ。	胎. 密: 小砂粒 胎. 良好 色. 茶色 胎.
124 245 F57 P82	V 区 大 壺	口. 19.2 体. 底. 高.	口縁部はわずかに外凸しながら のび、上部でさらに外反する。 口縁部は上下に小さく突出して いる。 底面部は丸みをもつ。	口縁部内外面ともヘタ目後に横ナゲ 調整。 胴部外面はナゲ調整。	胎. 密: 小砂粒 胎. 良好 色. 灰色 胎.
125 140 F57 —	V 区 大 壺	口. 16.2 体. 底. 高.	竪縞的のびる口縁部は上部で 外凸する。	外面は横ハゲ目を横ナゲ削し。 内面は頸部が横ハゲ目と下部はナゲ 調整。	胎. 密: 粘良 胎. 良好 色. 赤茶色 胎.
126 142 F57 —	V 区 大 壺	口. 15.6 体. 底. 高.	口縁部は外凸してのび、口縁部 断面は方形に近い。	外面は横ハゲ目を横ナゲ削し。 内面は砂粒露出し、調整度不詳明 だが、ナゲか。	胎. 密: 粘良 胎. 良好 色. 赤茶色 胎.

Tab. 13 出土土器観察表03

番号	造器 機種	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	備考
127 31 F57	III 区 1号 壺	口、17.8 体、 底、 高、	口縁部は外湾しながらのび、口 縁部上面は凹状をなす。 胴部部の器壁はうすく、外湾は 窪む。	口縁部は内外面とも横ナゲ調整。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、茶褐色 他、
128 68 F57 —	V 区 5号 壺	口、18.2 体、 底、 高、	口縁部は器砂に湾曲しながら僅 く外反する。 胴部部は内面は凹状となる。	胴部内面はへり削り。 足高部上面はナゲ上げ。 口縁部は内外面ともハゲ目を横ナ ゲ消し。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、茶色 他、
129 33 F57	II 区 1号 壺	口、17.2 体、 底、 高、	胴部内面の縁は丸みがある、 口縁部は必ず外湾しながら のび口縁部は丸くおさめる。	胴部部は瓶のハゲ目、他は磨耗し、 調整痕不明。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、明茶色 他、
130 243 F57 F82	V 区 大 壺	口、18.0 体、 底、 高、	胴部から大きく屈曲し、直線的な 口縁部がつく。 口縁部近くでわずかに外湾して いる。	胴部部外縁は強い横ナゲ、内面は ナゲ調整。 胴部内面はへり削りであるが方向 は不明。 口縁部は内外面とも細かくハゲ目 を横ナゲ消し。	胎、粗：2～5mm大砂粒 焼、良好 色、赤茶色 他、
131 58 F57 —	II 区 1号 壺	口、17.8 体、 底、 高、	口縁部は直線的に弱く。 器曲部内面は微をもつ。	口縁部外面は概しハゲ目後に丁寧 な横ナゲを加える。 内面は粗いハゲ目調整のまま。 胴部外面は縦ハゲ目をナゲ消し。 内面はへり削りも器壁うすくなる。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、茶色 他、
132 90 F57 —	II 区 1号 壺	口、21.0 体、 底、 高、	直線的に外反する口縁部はやや 凹凸がある。	口縁部内面は横ハゲ目を逆時計ま わりの横ナゲ消し。 外面は縦ハゲ目を横ナゲ消し。 胴部外面はナゲ、内面はへり削り。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、灰茶色 他、
133 165 F58 F82	V 区 大 壺	口、13.0 体、19.8 底、 高、	球形の胴部は外反する口縁部が つく。 口端部は先細く丸みをもつ。	口縁部内外面はハゲ目を横ナゲ消 し。 胴部外面はハゲ目、下率はナゲ調 整、内面は右方向のへり削り。 器曲部内面は指押え横ナゲ上げ。	胎、粗 焼、良好 色、茶褐色 他、
134 26 F58 —	III 区 1号 壺	口、13.2 体、 底、 高、	球形の胴部が凹かく外反する口 縁部がつく。	胴部外面はハゲ目調整、内面は打 こりのへり削り。 口縁部は内外面ともハゲ目を横 ナゲ消し。	胎、小砂粒多い 焼、良好 色、赤茶色 他、
135 126 F58 —	V 区 大 壺	口、17.6 体、 底、 高、	口縁部の外反は大きく、口端部 近くでさらに外反する。 器曲部内面には微をもつ。	口縁部は横ナゲ調整。 胴部外面はナゲ調整、内面は左 側のへり削り。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、茶色 他、
136 99 F58 F82	V 区 大 壺	口、18.0 体、 底、 高、	底口する口縁部は内湾してのび、 口端部近くで大きく外湾する。 口縁下部には器曲部部の粘土層 を貼り付け筋子貝目を施す。	内面は横ハゲ目を横ナゲ消し、外 面は横ナゲ調整。	胎、密：砂粒多い 焼、良好 色、明茶色 他、

Tab. 14 出上器観察表04

番号	遺器 構造	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
137 34 F58 —	Ⅱ区 1号 立	口、13.2	胴部径に比べ口径は小さい。 胴部から丸みをもって屈曲し、外 高して口縁部がのびる。	外面は細いハケ目調整。 胴部内面は粗いハケ目で、口縁部 内面にはハケ目はない。	胎、密 焼、良好 色、明茶色 地。
136 143 F58 —	V区 大溝 壺	口、11.2	球形の胴部から直線的に外反す 口縁部がつく。 胴部内面の縁は丸みをもつ。 果形上部とすべきか？。	胴部内面は屈曲部まで右よりのへ つ削り。 外面は横ハケ目調整。 口縁部は内外面とも横ナツ調整。	胎、密 焼、型織 色、灰茶色 地。
139 35 F58 —	(Ⅰ区) 壺	口、14.0	胴部からの屈曲は微くなく、緩 みにぶい。 口縁部は凹凸がめだも、口縁部 は凹状となる。	口縁部内面はハケ目調整、外面は 横ナツ。 胴部内面はへつ削り、外面はハケ 目調整。	胎、小砂粒多い 焼、良好 色、黒褐色 地。
140 199 F58 —	Ⅲ区 1号 1号 壺	口、12.8 体、16.0 底、 高、	小型の胴部に小さく外反する細 い口縁部がつく。	屈曲部は緩はくなくナツ上げ調整。 胴部内面は右よりのへつ削り。 外面は細のハケ目調整。	胎、小砂粒多い 焼、良好 色、灰茶褐色 地。
141 141 F58 —	V区 大溝 壺	口、11.8	瓶形の胴部にく字形に外反する 口縁部で、口縁部は先鋭くなり、 小さく外高する。	胴部内面は細いハケ目調整。 口縁部は横ナツ、屈曲部内面は横 ハケ目調整。 胴部外面に黒染。	胎、粗：砂粒多い 焼、良好 色、茶色 地。
142 66 F58 P83	V区 大溝 壺	口、14.6 体、14.0 底、 高、	胴部径大径は口径より小さい。 口縁部は内高きみにのびる。	口縁部内外面は細いハケ目を横 ナツ調整し。 胴部内面はナツ、下部はハケ目調 整。外面は細いハケ目で、下部 の粘土接合部が沈没状となる。	胎、密：磨良 赤、良好 色、赤茶色 地。
143 249 F58 P83	V区 大溝 壺	口、12.0 体、13.4 底、 高、9.9	84と同じような口縁部をもつ。 胴部のつくりはうすく、扁球状 をなす。	口縁部は内外面とも横ナツ。 胴部内面は左上りのへつ削り、外 面はハケ目調整。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、赤茶色 地。
144 59 F59 —	Ⅱ区 1号 溝 壺	口、10.8	144～150に直立する口縁部をも つ。144・145の胴部は大きい。 144の口縁部は原形的に内傾す るが、凹かめだつ。 口縁部は丸くおさめる。	口縁部の内外面は横ナツではなく ナツ調整。 屈曲部内面はナツ上げ。 胴部外面は左上りのへつ削り。 口縁部に黒染がある。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、外：茶色 内：灰茶色 地。
145 242 F50 P83	V区 大溝 壺	口、12.4	わずかに外傾する口縁部は長く、 中段でへこむ。 下部は胴部との接合のままで、 下方に突出している。	口縁部の内外面は横ハケ目調整 し。 胴部外面はハケ目、内面はナツ調 整。	胎、密 焼、良好 色、灰茶色 地。
146 49 F58 —	Ⅱ区 1号 溝 壺	口、9.0	146～150は胴部径大径よりも口 径が小さく、小型で丸底をなす のであろう。	口縁部は横ナツだがやや緩な調整 である。 胴部外面はナツ、内面は左方向の へつ削り。	胎、密 焼、良好 色、褐色 地。

Tab. 15 出土土器観察表09

番号	遺器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
147 213 F59 —	V 区 2号溝 壺	口、9.8 体、13.0 底、 高、	球形の胴部に長く直立する口縁部がつく。 肩曲部内面にはにぶい稜をもつ。	口縁部内面は粗い横ハケ目。 外面は口縁部から胴部中位まで縦の粗いハケ目。胴部中位は約1cm幅で時計まわりへり削りを加える。胴部下半は内外面とも粗かいハケ目。	胎、密：褐赤 澁、良好 色、茶色 他、
148 13 F59 P83	III 区 1号溝 壺	口、8.8 体、 底、 高、	直線的にのびる口縁部は、わずかに外傾する。 肩曲部内面は稜はなく丸みをもつ。	口縁部は内外面とも横ナゲ。 胴部外面はナゲ、内面は右方向のへり削り。 肩曲部内面は直く押して横ナゲ、外面には、ハケ目をわずかに加える。	胎、密：小砂粒 澁、良好 色、黒褐色 他、
149 49 F59 P83	II 区 1号溝 壺	口、11.4 体、 底、 高、	肩曲部内面には稜をもち、直線的にのびる口縁部が鋭く。 口端部は先鋭くつくる。	胴部内面は削きのなな割調整。 口縁部内外面と胴部外面は粗かい横の磨きを加える。	胎、砂粒少 澁、良好 色、褐色 他、
150 50 F59 —	I 区 前部砂土 壺	口、9.8 体、 底、 高、	口縁部は短く直立し、口端部は小さく外反する。	口縁部と胴部外面はナゲ調整。 胴部内面は左方向のへり削りで上部は指押え。	胎、砂粒少 澁、良好 色、外：赤褐色 内：茶色 他、
151 245 F59 P83	V 区 2号溝 壺	口、9.4 体、11.2 底、 高、11.2	球形の胴部に実りぎみの丸縁がつく。 口縁部は直線的に外反し、口端部は先鋭くつくる。 口径よりも胴部最大径が大きい。	肩曲部内面にはにぶい稜をもつ。 胴部外面はナゲ、内面は整形時の指ナゲ上げのままである。	胎、密：砂粒少 澁、良好 色、茶色 他、
152 36 F59 P83	III 区 1号溝 壺	口、10.8 体、10.0 底、 高、	胴部は球形をなすが、張りがない。 肩曲部は稜がなく丸く屈曲し、口縁部は直線的に外反する。	口縁部は横ナゲ調整。 胴部内面はへり削りで、外面は粗いハケ目を横ナゲ消し。	胎、密：砂粒少 澁、良好 色、外：黒褐色 内：褐色 他、
153 77 F59 P83	(IV区) 壺	口、10.4 体、10.8 底、 高、	肩曲部は肥厚し、内面にはにぶい稜をもつ。 口縁部は外傾しながらのび、口端部は先鋭くつくる。	口縁部内面は横ハケ目後に横ナゲを加える。 胴部内面は左方向のへり削り、外面は粗い横のハケ目調整。	胎、密：砂粒少 澁、良好 色、灰褐色 他、
154 261 F59 P83	V 区 2号溝 壺	口、8.4 体、9.9 底、 高、9.7	球形の胴部はやや上位に実りをもつ。 外傾する口縁部は、わずかに内反している。口端部は丸くおさめる。	口縁外面は粗かいハケ目を横ナゲ消し。 胴部外面は粗かいハケ目調整。 内面は上部は右方向のへり削り、下部は指ナゲ上げ。	胎、密：小砂粒 澁、良好 色、灰褐色 他、
155 147 F59 P83	V 区 2号溝 壺	口、9.2 体、8.8 底、 高、8.6	胴部は浅く偏球形をなす。 外傾する口縁部は口端部近くでさらに外反し、先鋭くつくる。	口縁部は内外面とも横ナゲ。 胴部外面はナゲ、内面は強く指ナゲ上げ。 胴部の調整はやや粗雑。	胎、密：小砂粒 澁、良好 色、茶色 他、
156 62 F59 P83	V 区 2号溝 壺	口、9.0 体、8.4 底、 高、	胴部に張りはなく、口縁が胴部最大径より大きい。 肩曲部は肥厚し、内面にはにぶい稜をもつ。 口縁部は直線的に外反する。	口縁部は横ナゲ調整。 胴部内面はへり削りか？	胎、密：小砂粒 澁、良好 色、灰褐色 他、全体的に磨耗

Tab. 16 出土土器観察表00

番号	遺器 種類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
157 146 F50 P83	V区 2号 壺	口、8.4 体、7.8 底、 高、8.1	156と同じように口唇が胴部越 大径より大きいつくりをなす。 胴部外面は強く横ナゲし凹状 をなす。	口縁部は横ナゲ調整。 胴部は内外両ともナゲ調整。	胎、密；砂粒やや多い 焼、良好 色、茶色 他。
158 262 F59 P83	(V区) 壺	口、8.4 体、9.5 底、 高、8.2	よく整った形状をなす。 胴部は絞はないが、下方に突 出釜みである。	口縁部内面は横ハケ目を横ナゲ消 し。 胴部外面は細かいハゲ目調整で丁 平な調整をなす。 内面下部は強く指ナゲ上げ。	胎、密；小砂粒 焼、良好 色、灰茶色 他、外面に灰付着
159 145 F80 P85	V区 2号 調 壺	口、9.6 体、8.0 底、 高、8.0	159-161は口縁部が長く口唇が 胴部最大径よりも大きい形状を なす。 器壁は厚く調整は丁寧である。	口縁部とハゲ目を横ナゲ消し。 胴部外面は横の粗いハゲ目、内面 は強く指ナゲ調整。	胎、密；砂粒少 焼、型雑 色、灰茶色 他。
160 247 F80 P85	V区 大 壺	口、8.8 体、7.6 底、 高、7.5	胴部は半球状で、口縁部の立ち 上りは大きい。	口縁部は横ナゲ調整。 胴部外面はナゲ、底部は指押しか。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、茶褐色 他。
161 19 F60 —	III区 1号 調 壺	口、12.6 体、9.8 底、 高、	胴部は半球形に近く、口縁部は さわめて長く、口唇は胴部最大 径より大きい。 口縁部は後部に湾曲してのび、 口唇部は先細くなる。	口縁部内面は横ハケ目後に横ナゲ を加え、ハゲ目はほとんど消える。 外面は横の野まか？ 胴部内面は横ナゲ調整。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、明茶色 他。
162 137 F60 P85	V区 大 壺	口、9.2 体、15.2 底、 高、15.3	球形の胴部の中心には縦成後に 穿孔される。 口縁部を欠く。	胴部上半はハゲ目をナゲ消しか？ 下半は細かいハゲ目調整。 底面近くに黒斑。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、灰茶色 他。
163 57 F60 P85	(V区) 壺	口、7.2 体、7.1 底、 高、6.7	163-166は小型丸底壺形の子控 ね上器である。 胴部は球形で、尖り釜みの底面 がつく。 口縁部の調整はうすいつくりで、 小さく引き出している。	口縁部外面は指押え後にナゲ調整。 胴部内面は強く指ナゲ上げ。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、灰茶色 他。
164 56 F60 P85	(V区) 壺	口、7.0 体、7.2 底、 高、6.2	胴部の張りはなく、底部は丸底 であるが安定感がある。 口縁部は直線的に外傾する。	外面は横ハケ目を横ナゲ消し。 底部外面は粗いハゲ目。 胴部内面上半はナゲ、下半は丸底 中心より放射状に指ナゲ上げる。 胴部は歪まわり。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、茶褐色 他。
165 148 F60 P85	V区 2号 調 壺	口、5.0 体、6.5 底、3.8 高、5.2	胴部は小壺形であるが平底をな す。 口縁部は胴部から内面に絞をも って前曲し、小さく外反する。	外面は横いハゲ目。 内面は指ナゲ上げ。	胎、粗；砂粒少 焼、良好 色、茶色 他。
166 162 F60 P85	II区 1号 壺	口、4.8 体、5.6 底、 高、4.8	球形の胴部に小さく外反する口 縁部がつく。	胴部外面はハゲ目。 内面は右トりの指ナゲ上げ。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、茶色 他。

Tab.17 出土土器観察表(17)

番号	遺器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
167 135 F60 P85	Ⅱ区 1号溝 壺	口. 4.2 体. 5.1 底. 高. 4.9	胴部最大径は下方にあり、上半部は内傾する。 口縁部は小さく、直立きみにのび、口端部は先細くなる。	胴部内面は底部から横ナゲ上げ。	胎. 密; 砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
168 134 F60 P85	Ⅱ区 1号溝 壺	口. 3.6 体. 5.0 底. 高. 4.2	底部は丸底で厚いつくりをなす、口縁部はわずかに外湾しながら直立する。	口縁部下半は強く横ナゲし、凹状となる。	胎. 密; 砂粒少 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
169 52 F60 P85	(Ⅴ区) 鉢	口. 9.0 体. 底. 高. 4.6	小安定な底部から体部は外湾してのび、そのまま口縁部をつくる。	内面は上半部が縦かへつて目、下半部はナゲ。 外面は上から下へのへら押しとぎみのナゲ、底部はナゲ調整。	胎. 密; 砂粒少 焼. 良好 色. 褐色 他.
170 210 F60 P85	Ⅴ区 大鉢	口. 9.0 体. 底. 高. 4.7	底部は凹底があり、きわめて不安定。 体部は外湾しながら開き、口端部は先細くなる。	口縁部は波うち、器面の調整は指押えのみ。	胎. 密; 砂粒少 焼. 良好 色. 褐色 他.
171 54 F60 P85	(Ⅴ区) 鉢	口. 7.6 体. 底. 4.6 高. 4.9	底部は平底に近い形状をなす。 体部は直立きみにのび、口端部は先細くつく。 口縁部は波打つ。	口縁部は横ナゲし、わずかに段がつく。 体部外面は横ナゲ調整。	胎. 密; 砂粒少 焼. 良好 色. 茶褐色 他.
172 258 F60 P85	Ⅴ区 2号溝 鉢	口. 7.4 体. 底. 2.9 高. 4.3	底部は小さく上げ底となる。	体部内面は1事なナゲ調整。 外面はへらナゲ上げ。	胎. 密粒少ない 焼. 良好 色. 外: 灰紫色 内: 鉛灰茶色 他.
173 183 F60 P85	Ⅲ区 1号溝 鉢	口. 4.4 体. 底. 2.8 高.	丸底から直線的に内傾する体部がのびる。	外面は指押えのままで、内面はナゲ調整を加える。	胎. 砂粒 焼. 良好 色. 茶色 他.
174 133 F60 P85	Ⅲ区 1号溝 壺	口. 5.8 体. 底. 高. 2.2	半球形の体部で底部は突る。	外面は指押えで内面はナゲ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 黒褐色 他.
175 363 F60 P85	Ⅲ区 1号溝 鉢	口. 4.4 体. 底. 1.7 高. 4.5	底部は不安定な平底で、体部の立ち上りは大きく直立きみにのび、口端部は丸みをもつ。	体部外面は2段の指押えで凹凸がめだつ。 口縁部は波打ち、いびつである。	胎. 密; 砂粒少 焼. 良好 色. 灰茶色 他.
176 64 F60 —	Ⅴ区 大溝 鉢	口. 13.2 体. 11.8 底. 高.	176~180は楕球形の体部に内湾きみにのびる口縁部がつくもので、鉢ではなく小型丸底壺とすべきもの。 176の粗面部内面は縁がつくがあまりするとくない。	口縁部は横ナゲ調整。 体部内面はナゲ、外面は縦かへつて押しを加える。	胎. 密; 精良 焼. 良好 色. 黒褐色 他.

Tab. 18 出土土器観察表⑧

番号	遺器 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
177 29 F60 —	Ⅱ区 1号 赤 鉢	口、17.2 体、14.2 底、 高、	楕球形の体部は中位でふくらむ。 口縁部は外開しながらのび、口 縁部は断面方形をなす。	口縁部は横ナゲ調整。 体部内面はヘラナゲ（あるいはヘ ラ削りか）。 外面は縦ハケ目をナゲ削す。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、濃茶色 地、
178 123 F60 —	V区 大 赤 鉢	口、11.6 体、10.6 底、 高、	圓球形の体部に直立ぎみの口縁 部がつく。 断面部内面の縁はにぶい。	内外面とも横ナゲ調整。	胎、密：精良 焼、良好 色、淡赤色 地、
179 189 F60 —	Ⅳ区 赤 鉢	口、12.0 体、9.7 底、 高、	係部は半球形に近く、両肩部の くびれは弱く、そのまま口縁部 へのびる。 断面部内面は横をもつ。	口縁部内面は細かいハケ目後に横 ナゲ調整。 体部内面は粗いハケ目。 体部内面は粗いハケ目。	胎、密 焼、良好 色、茶色 地、
180 12 F60 —	Ⅲ区 鉢	口、15.6 体、11.2 底、 高、	深まない楕球形の胴部に大き く外に開く口縁部がつく。 断面部内面は小さく突出し、口 縁部は微妙に西曲してのび、口 縁部は先細くつくる。	器底の調整は丁寧な横ナゲ調整で、 うすいつくりをなす。	胎、密：精良 焼、良好 色、赤茶色 地、
181 55 F61 —	(V区) 鉢	口、10.0 体、9.8 底、 高、6.8	半球形の体部上半は直立ぎみに のび、口縁部は小さく外反し、 丸くおさめる。	口縁部は横ナゲ調整。 体部上半はナゲ、下半は右上りの 筋ナゲト浮。 底部に葉状痕が見られる。	胎、密：砂粒少 焼、良好 色、黒褐色 地、
182 53 F61 P84	(V区) 鉢	口、10.8 体、 底、 高、2.8	浅い半球形の体部で、口縁部は そのまま丸くおさめる。	内面は丁寧なナゲ調整。 外面下半部は横の細かいハケ目。	胎、密：砂粒少ない 焼、良好 色、灰茶色 地、
183 120 F61 P84	V区 大 赤 鉢	口、9.6 体、 底、 高、3.5	平底ぎみの底形から体部は大き く西曲してのび、上半部は直立 する。	口縁部外面は脂押え。 内面は左上りの指ナゲ上げ。	胎、密 焼、良好 色、茶色 地、
184 124 F61 —	V区 大 赤 鉢	口、11.4 体、 底、 高、4.9	半球形の体部で底部を欠く。 口縁端部は丸くおさめる。	外面はナゲ、内面は丁寧な横ナゲ 調整。	胎、密 焼、良好 色、明茶色 地、
185 21 F61 P84	Ⅱ区 1号 赤 鉢	口、14.6 体、4.6 底、3.9 高、	いわゆる低脚付環形土器に近似 している。 底部の芯は側面を小刻みに押え て引き出している。	体部内面の上半はヘラ目後にナゲ を加える。外面はナゲ調整。 合部外底は上げ彫削をなし、粗い ハケ目調整。	胎、密：小砂粒 焼、良好 色、茶褐色 地、
186 121 F61	V区 大 赤 鉢	口、15.6 体、 底、 高、	口縁部内面には横ナゲ調整でわ ずかながら段をもつ。外面には 浅い沈線が通っている。	口縁部は横ナゲ調整。 体部はナゲ調整で、内面のナゲは 丁寧である。 体部に黒斑がある。	胎、密：精良 焼、良好 色、茶色 地、

Tab.19 出土土器観察表(9)

番号	遺器 構種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
187 94 F61 —	V 区 大 溝 鉢	口. 21.6 体. 底. 高.	大底から体部は外湾しながら大きく開き、中位で緩やかに屈曲し、口縁部でさらに小さく外湾する。	体部内面は粗い横ハケ目。 外面は横ナツ調整。 体部下半には灰が付着し土質的な使用法が考えられる。	胎. 密: 小砂粒 焼. 良好 色. 褐色 他.
188 179 F61 —	V 区 大 溝 鉢	口. 23.4 体. 底. 高.	底面を欠くが半球形をなすのであろう。 口縁部は凹状となる。	体部内面上部と外面下半はハケ目調整。 他の部分はナツ調整。	胎. 密: 砂粒少 焼. 良好 色. 茶色 他.
189 185 F61 —	V 区 大 溝 鉢	口. 24.8 体. 底. 高.	体部下半を欠くが口縁部のつくりは 190 とよく類似した特徴をもつ。 口縁部は外湾ぎみにのびるが、底部部に低い突帯を巡らす。	突帯部は横ナツ調整。 他の部分はナツ調整。	胎. 密: 小砂粒 焼. 良好 色. 灰褐色 他.
190 70 F61 —	V 区 大 溝 鉢	口. 28.6 体. 底. 高.	189 に比べ口縁部の立ち上りは小さく、体部も半球形をなす。突帯は断面三角形であるが低く、幅広い。	口縁部内面は凹状をなす。 口縁部内外面と突帯部は横ナツ調整。 体部は内外面ともナツ調整。 ナツは粗粒だが、筋上特良のため磨き状の調整となっている。	胎. 密: 極良 焼. 堅緻 色. 褐色 他.
191 309 F62	V 区 7 号 溝 高 環	口. 33.0 体. 底. 高.	大型の環部で、上半部は長く湾曲してのびる。 上半部の器壁は下半部に比べかなりふ厚いつくりをなす。	上半部外面は縦の磨き。 内面は横ハケ目をナツ消し、さらに縦の磨きを加える。 下半部内面はハケ目をナツ消す。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰褐色 他.
192 169 F62 —	V 区 7 号 溝 高 環	口. 33.8 体. 底. 高.	下半部を欠いているが高環と考えた。 下半部は湾曲しながらのび、上半部は反転し、外湾してのびる。	外面は縦ハケ目後にナツ調整を加える。 内面上半部は粗い横ハケ目後に横ナツ、下半部は縦ハケ目後にナツ調整。	胎. 小砂粒多い 焼. 普通 色. 灰褐色 他.
193 214 F62 —	V 区 大 溝 高 環	口. 18.8 体. 底. 高.	外部下位の肩曲部は、外面におおむね段をもつ、内面は沈線となる。 上半部は外湾しながらのび、口縁部断面は方形に近い。	肩曲部外面におおむねハケ目が見られる。 上半部は内外面ともに横ナツ。	胎. 密: 砂粒少 焼. 普通 色. 褐色 他.
194 171 F62 P84	(V区) 高 環	口. 19.0 体. 底. 高.	下半部は水平に直く、上半部は内湾ぎみにのび、口縁部で小さく外湾している。	上半部外面は横ナツ調整。 内面は横ハケ目後に横ナツを加える。	胎. 密: 砂粒少 焼. 普通 色. 褐色 他.
195 18 F62 —	Ⅲ区 高 環	口. 19.0 体. 底. 高.	環部上半部の小破片。 上半部は屈曲部より緩やかに外反するが、口縁部でさらに外反している。	全体的に磨耗し、調整痕は、不鮮明。	胎. 密: 小砂粒わず 焼. 良好 色. 赤褐色 他.
196 170 F62 P84	V 区 大 溝 高 環	口. 17.4 体. 底. 高.	下半部は内湾しながらのび、上半部は緩やかに湾曲しながらのびる。 脚部接合部に刻線。	外面はハケ目を横ナツ消し、内面上半部は横ナツ、下半部はナツ調整。	胎. 密: 小砂粒多 焼. 良好 色. 茶色 他.

Tab. 20 出土土器観察表四

番号	遺器 種類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
197 132 F 62 P 84	Ⅲ ビツ 高 区 環	口、18.8 底、 高、	頸部を欠く。腰部はほぼ中位で屈曲するが、丸みがある。下半部はわずかに内湾しながらのび、上半部は外反し、口縁部でさらに外反する。	頸部状態は中位でふくらむ。外部外面は細いハケ目後にナゲ調整。内面はナゲ調整。	胎、密：砂粒少 他、良好 色、黄茶色 他、
188 F 62 —	Ⅴ 大 高 区 環	口、20.8 底、 高、	肩部より下半部を欠く。上半部は外湾しなからるのび、口縁部でさらに微妙に内湾する。	外面は縦の粗いハケ目後に横ナゲを加える。内面は横ハケ目後にナゲ調整。	胎、密：砂粒少 他、堅緻 色、灰茶色 他、外部に黒斑
199 138 F 62 P 84	Ⅴ 大 高 区 環	口、18.2 底、 高、	環部屈曲部は下位にあり、上半部が下半部より長く、下半部は水平に近い。上半部は直線的に外反する。	外面はハケ目を横ナゲ消し。下半部内面はナゲ、屈曲部内面にハケ目が見られる。	胎、密：砂粒少 他、堅緻 色、茶色 他、
200 182 F 62 —	Ⅴ 大 高 区 環	口、18.8 底、 高、	環部上半部の小破片。外反する上半部は中位でわずかに内湾している。口縁部は丸くおさめる。	内面は横ナゲ調整。外面は縦ハケ目後に横ナゲを加える。	胎、密：小砂粒 他、良好 色、黄茶色 他、
201 230 F 62 —	Ⅴ 大 高 区 環	口、 底、 高、	環部の口縁部を欠く。下半部は水平でなく、わずかに内湾している。肩部外面に丸みをもち、	上半部外面はハケ目後に下半部にかけて横ナゲ調整。肩部内面には横ハケ目が見られる。頸部接合部で割離。	胎、密 他、堅緻 色、暗灰茶色 他、
202 244 F 62 P 84	Ⅱ 1号 高 区 環	口、16.0 底、 高、	環部屈曲部は中位に近くあがり、上下半部の長さが等しくなる。下半部は内湾さみどりのび、上半部は口縁部近くでわずかに外湾する。	外面は横ナゲ調整。内面は粗いナゲ調整。頸部接合部で割離。	胎、密：小砂粒 他、普通 色、茶色 他、外面に黒斑
203 38 F 63 —	Ⅱ 1号 高 区 環	口、17.8 底、 高、	環部の破片で頸部を欠く。環部下位で屈曲し、直線的に開く口縁部がのびる。	内外面ともにハケ目後に横ナゲ調整を加える。	胎、密：砂粒少 他、良好 色、外：赤茶色 内：赤褐色 他、
204 139 F 63 P 84	Ⅴ 大 高 区 環	口、13.4 底、 高、	環部下位で屈曲するが、口縁部の立ち上りには大きい。頸部との接合部で割離している。接合部は山形に突出し挿入接合している。	肩部部下位外面はハケ目で、後に横ナゲ調整。	胎、密：砂粒少 他、良好 色、黄茶色 他、
205 256 F 63 P 84	Ⅱ 1号 高 区 環	口、13.2 底、 高、	134とともに口部の小さい環部で、形状の特徴も一致する。屈曲部外面は、彫装が密りあがる。	内面は横ハケ目を横ナゲ消す。外面は横ナゲ調整。肩部外面には縦のハケ目が見られる。	胎、密 他、良好 色、灰茶色 他、
206 209 F 63 —	Ⅵ 大 高 区 環	口、 底、 高、	環部の屈曲部より下半部の破片。屈曲部の接合方法がよく観察できる。	接合部は横のハケ目をいれ、さらに上面に刻み目を造らし、接合を容易にしている。外面はハケ目、後に横ナゲ調整。	胎、密：砂粒少 他、堅緻 色、赤褐色 他、

Tab. 21 出土土器観察表(2)

番号	遺器 種類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
207 F63 P86	V 区 大 区 高 溝 環	口、19.0 底、 高、	環部は2段の屈曲部をもつ。 一段目は垂直近く立ち上り、二 段目は大きく外に開く。 口縁内面は上方に小さく突出 している。	2段の屈曲部はいずれも丸みがある。 口縁部はハタ目を横ナゲ削す。	胎、密；小砂粒 焼、堅緻 色、黒灰茶色 他、
208 43 F63 P86	田 区 1号 溝 高 環	口、17.0 底、 高、	丸形の環部で、中位に段をもつ。 脚部との接合部で割離。	内面は丁寧に滑り削り。 外面は段より上部が横ナゲ調整、 下部は粗いヘラ削り。 脚部との接合面は粗い素焼をいれ ている。	胎、密；砂粒少 焼、堅緻 色、黒茶褐色 他、
209 276 F63 P86	V 区 大 区 高 溝 環	口、 底、13.4 高、	環部を欠く。 柱状部より、裾部は湾曲しなが ら広がる。 湾曲部に3か所で焼成後の穿孔 が見られる。	内外面とも粗いハタ目後にナゲ 調整を加える。 柱状部内面にははばり筋が見られ る。	胎、密；砂粒少 焼、堅緻 色、灰茶色 他、
210 174 F63 P86	V 区 大 区 高 溝 環	口、 底、12.4 高、	柱状部とさらに細く、環部と接 合法が視察できる。 脚部内面に1本の沈線がめぐ る。 湾曲部の3か所で焼成後の穿孔 がある。	柱状部外面は順のナゲ。 下部はヘタ目後にタテの磨きを加 える。 脚部内面は時計まわりの横ハタ 目調整。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、灰茶色 他、
211 175 F63 P86	V 区 大 区 高 溝 環	口、 底、12.4 高、	210と同じように環部との接合 部をとる。 脚部は、直線的に開く。 湾曲部の3か所で小孔がある。 この小孔は断面調整後の穿孔。	柱状部内面は指による横方向のナ ゲで円内がだつ。 外面はハタ目後にナゲ調整。 内面は横ハタ目調整。	胎、小砂粒多い 焼、普通 色、暗灰紫色 他、
212 164 F63 P86	Ⅷ 区 大 区 高 溝 環	口、 底、12.0 高、	柱状部は、筒状に中空になって いない。 脚部は直線的に大きく開く。 焼成前の穿孔が3か所で見られ る。	内面はナゲ調整。 外面は横の磨きか磨き。 磨きを加えているが、調整は全体 的に粗い。	胎、密；砂粒少 焼、良好 色、茶色 他、
213 F63 P86	Ⅳ 区 5号 溝 高 環	口、 底、10.8 高、	柱状部は中位でわずかにふくら む。 柱状部の磨きは厚いが、脚部部 はうすいつくりである。	柱状部はヘラ押さえて粗い整形を なす。 内外面とも粗いハタ目。 小孔はない。	胎、密 焼、良好 色、茶色 他、
214 22 F63 P86	I 区 1号 溝 高 環	口、 底、14.4 高、	柱状部はさらにふくらむ。 脚部は湾曲しながら大きく広 がる。 脚部部の2か所で穿孔。	柱状部外面は横ハタ目後に上下の ナゲ削し。 脚部外面はハタ目を横ナゲ削し。 内面は横ナゲ調整。	胎、密；砂粒少ない 焼、良好 色、茶色 他、
215 86 F64 P87	V 区 大 区 高 溝 環	口、 底、12.8 高、	高環の脚部と考えたが、形状は 240の小型器台に類似している。 脚部は大きく開き、筒状をなさ ない。 脚部部でわずかに屈曲している。	外面は横ハタ目をナゲ削す。 内面は上部がヘラ削り、下部はハ タ目後に横ナゲ調整を加える。	胎、密 焼、良好 色、茶褐色 他、調整は丁寧
216 14 F64 P87	Ⅲ 区 高 区 環	口、 底、12.4 高、	ハコ形に開く脚部で、接合部は 水平になる。 脚部部は丸く、丸みをもつ。	外面はヘラで上下に整形し、細か いハタ目調整を加える。 脚部部は内外面とも横ナゲ調整。 脚部内面は順のナゲ削り、下部は 横ナゲ後に順のナゲ調整。	胎、密 焼、良好 色、茶色 他、

Tab. 22 出土器類表(2)

番号	遺器 種類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
217 14 F64 —	Ⅲ 区 高 坪	口、 体、 底、13.4 高、	217と同じ特徴をもつが、手世に違いがある。	脚端部の外面は横ナゲ調整。内面はナゲ調整。 側面外面は縦のナゲ調整。	胎、密：砂粒少 純、良好 色、赤色 他、
218 15 F64 —	Ⅲ 区 ビット 高 坪	口、 体、 底、19.6 高、	脚部は下部で屈曲し、ほぼ水平な肩部をつくる。 屈曲部内面は鋭がつく。	脚部部は内外ともに横ナゲ調整。 脚部部外面はナゲ、内面はへつ(?) ナゲ調整。	胎、密：小砂粒 純、良好 色、赤茶色 他、
219 234 F64 —	Ⅰ 区 1号溝 高 坪	口、 体、 底、11.8 高、	下部で屈曲し、肩部をつくるが、218に比べ屈曲は弱い。	脚部部内面は、逆時計方向のへつ削り後にナゲ調整。	胎、密：小砂粒 純、良好 色、赤色 他、
220 227 F64 —	V 区 大溝 高 不	口、 体、 底、13.8 高、	219のように下部で屈曲し、肩部をつくるが、長く、肩幅が大きい。	脚部部内面は逆時計方向のへつ削り。 他の部分はへつ後にナゲ調整を加える。	胎、密：小砂粒少ない 純、良好 色、外：赤色 内：赤茶色 他、
221 246 F64 P87	V 区 人溝 高 環	口、 体、 底、13.6 高、	特異な形状をなす脚部で肩部は屈曲部から凸出している。先端は鋭くなっている。 脚部部には鋭突起に3か所で穿孔される。	脚部部内面は逆時計方向のへつ削り。 他の部分は横ナゲ調整。	胎、密：小砂粒 純、普通 色、赤茶色 他、
222 253 F64 P87	Ⅱ 区 1号溝	口、 体、 底、5.8 高、	222~230は小型の台で上部形は知らないが、多くは台付縁となるのであろう。	外周は横ナゲ調整。 内面はナゲ調整。	胎、粗 純、普通 色、赤茶色 他、
223 17 F64 P87	Ⅲ 区 1号溝	口、 体、 底、8.0 高、	ハ字形に開く台であるが、縁部部は水平に屈曲している。 上部への移行部は凹状にへこむ。	縁内面はナゲ調整。 台部は横ナゲ調整。	胎、密 純、普通 色、黒茶色 他、
224 122 F64 P87	V 区 大溝	口、 体、 底、7.8 高、	台部は中位で屈曲し、水平な肩部をつくる。 台部は環形の縁か?	縁(?)の内外面はナゲ調整。 台部は横ナゲ調整で、内底部はナゲ仕上げ。	胎、密：1mm大の砂粒 純、良好 色、赤色 他、
225 11 F64 P87	Ⅳ 区 2号溝	口、 体、 底、6.8 高、	上部と縁台部より別離している。 台部は湾曲しながら開く。	台部は内外ともに横ナゲ調整。	胎、密：小砂粒多 純、普通 色、赤色 他、
226 8 F64 P87	Ⅲ 区 2号溝	口、 体、 底、8.8 高、	上部で屈曲し、直線的に大きく開く。 内底部中央は小さく窪んでいる。	内面はへつ後に横ナゲを加える。 外面は横ナゲ調整。	胎、密：細長 純、普通 色、赤色 他、

Tab. 23 出土土器観察表(2)

番号	遺器 構種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
227 9 F64 P87	Ⅲ 区 2号溝	口、 体、 底、 9.4 高、	226と同じように上部で削している。 上部とは刺磨ではなく、折られた状況を示す。	外面はハケ目を横ナゲ削し。 内面はナゲ調整か?	胎、密:精良 焼、普通 色、灰青色 胎、
228 160 F64 P87	V 区 大溝	口、 体、 底、 10.4 高、	湾曲しながら開き、底部部は水平になる。 上部接合部より刺磨。	内外面は横ナゲ調整であるが、溝部にはわずかにハケ目が見られる。	胎、密:砂粒少ない 焼、普通 色、茶色 胎、
229 7 F64 P87	Ⅲ 区	口、 体、 底、 11.6 高、	背の低い台で、大きく開く。 上部は球形の鉢か、甕になるものであろう。 筒端部内面は焼輪がめぐる。	上部内面はヘラ(?)ナゲ。 接合部外側はハケ目。 台部は内外面とも横ナゲ調整。 外底部はナゲ調整。	胎、密:小砂粒多め 焼、普通 色、灰青色 胎、
230 126 F64 P87	V 区 大溝	口、 体、 底、 6.0 高、	小さな台に大きく開く上部がつく。 蓋とも考えられるが内面が丹塗りにされていることから台付の形影を考えた。	上部内面は放射状の粗かい磨き。 外面は縦ハケ目調整。 台部は横ナゲ、内面には横ハケ目が見られる。	胎、密 焼、良好 色、茶色 胎、
231 274 F65 P88	(Ⅲ区) 器台	口、 8.4 体、 5.2 底、 9.6 高、 15.7	中位でくびれる円筒の器台である。 くびれ部内面には縁がある。	体部は唯いハケ目(7番)調整。 内面はくびれ部より上下に横ナゲ調整。	胎、密:砂粒少ない 焼、普通 色、灰青色 胎、
232 275 F65 P88	Ⅳ 区 大器台	口、 7.9 体、 6.2 底、 9.5 高、 16.6	扁平であるが全形を知りえる。 くびれ部はあまりみならず、下径が上径に比べやや大きい。	体部は縦のハケ目調整。 上下端部は内外面ともに横ナゲ調整。 くびれ部内面は上下に横ナゲ調整。	胎、密:砂粒少ない 焼、普通 色、濃灰茶色 胎、
233 264 F65 P88	Ⅳ 区 大器台	口、 9.6 体、 6.1 底、 10.0 高、 17.1	中位のくびれ部から下平を欠く。 くびれ部から縦やかど外周して口縁へ続く。 上端部はわずかに外傾し、上面は凹状をなす。	外面は縦ハケ目調整。 くびれ部方面はヘラ押え状の調整か?	胎、密:砂粒少ない 焼、短縮 色、灰青色 胎、
234 186 F65 —	V 区 大器台	口、 体、 底、 12.8 高、	器台のト溝部の破片。 ハ字形に削いており、中位でくびれるのであろう。	内外面ともに指押え痕が見られる。	胎、底:砂粒多い 焼、普通 色、外:灰青色 内:白灰色 胎、
235 310 F65 —	Ⅳ 区 器台	口、 体、 底、 6.4 高、	筒形の器台で、中位はくびれていない。 底部部は平直で、厚い器壁をなす。	内外面ともに縦のナゲ調整。 外面には右下りの粗いハケ目が見られる。	胎、密:砂粒少ない 焼、短縮 色、淡灰色 胎、
236 125 F65 P88	V 区 器台	口、 体、 底、 17.4 高、	器受部口縁を欠いている。 中位にある起曲部は内面に縁をもつ。 器由柄上段の突起は下方に垂れさみとなる。	器受部内面は縦かへハケ磨き。 脚合部は内面はヘラ削り。 外面は横ナゲ調整。	胎、密:砂粒少ない 焼、短縮 色、茶色 胎、

Tab. 24 出土土器観察表04

番号	遺器 種類	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
237 149 F65	V 区 大器 器台	口、 体、 底、 高、 15.8	鉢形器内の側内部で一段目の突帯まで残る。 加曲部突帯は小さく水平に突出している。	内面上部は右上のヘラ削り。 他の部分は横ナゲ調整。	胎、密：砂粒少ない 焼、普通 色、赤茶色 他。
238 150 F65 一	V 区 大器 器台	口、 体、 底、 高、 16.8	鉢形器台の下部部破片である。 器台部は大きく開いている。	内面底部近くはヘラ削りのようであるが、方向は不明。 他の部分は横ナゲ調整。	胎、密：砂粒少量 焼、普通：やや軟質 色、明茶色 他。
239 40 F65 一	II 区 1号器 器台	口、 体、 底、 高、 18.8	鉢形器台の側内部であろう。 大きく開いており、端部は水平に縁地している。	内面上部は逆時計方向のヘラ削り。 他の部分は横ナゲ調整。	胎、密：砂粒少量 焼、普通 色、灰赤色 他。
240 51 F65 P88	(V区) 器台	口、10.0 体、 底、10.8 高、7.6	皿形の受部を持つ器台である。 受部口縁は上方に小さく突出している。 脚部には4か所に焼成前の穿孔がある。	外面は横ナゲ調整。 受部内面はヘラ削り調整。 脚部内面はヘラ削り調整。	胎、密：砂粒少量 焼、普通 色、灰赤色 他。
241 281 F66 P89	II 区 1号器 赤褐色土器	口、 体、 底、 高、	く字形口縁部の内側に強く横ナゲされた凹状となる。 口縁端は尖みを帯び、やや上向きである。	唇部外面は強く横ナゲする。内面は横ナゲで2段のふいばをもつ。 体部外面の印きは方形を呈し強い。	胎、小砂粒多い 焼、普通 色、赤赤色 他。
242 279 F66 P89	II 区 1号器 赤褐色土器	口、16.0 体、 底、 高、	体部上半の小破片。 体部上半は緩やかに外湾しながら内傾し、く字形口縁部が凸く縁部がつく。	口縁部内面が凹状をなすのは241と同じであるが、口縁端はさらに丸くなる。 磨耗のため印きは不明。	胎、小砂粒多い 焼、普通 色、赤赤色 他。
243 277 F66 P89	III 区 赤褐色土器	口、 体、 底、 高、 8.5	平底から体部はわずかに外湾しながら直線的にのびる。 内面の底部から体部への移行部は強く横ナゲしている。	体部下端は約1cm幅で時計まわりの浅いナゲ(ヘラ削り?)。 底部中央部は指押で上げ底状をなす。	胎、小砂粒多い 焼、普通 色、外：灰赤色 内：淡灰赤色 他。
244 280 F66 P89	II 区 1号器 赤褐色土器	口、 体、 底、 高、 9.5	体部下端は、時計まわりのナゲ(ヘラ削り?)でこの後に体部の印きを加える。さらに部分的ではあるが印き板をナゲ削している。	体部内面はナゲ調整。	胎、小砂粒多い 焼、普通 色、外：暗赤褐色 内：赤褐色 他。
245 278 F66 P89	II 区 1号器 赤褐色土器	口、 体、 底、 高、 10.0	外側の体部と底部との間はするどい。 底部1243・244に比べやすい磨損をなす。	体部外面の印き板は明確で方形を呈する。 体部下端は約1.5cm幅で時計まわりの横ナゲ(ヘラ削り?)で、この後に体部外面に印きを施している。	胎、小砂粒多い 焼、普通 色、外：暗赤褐色 内：赤褐色 他。
246 180 F67 一	IV 区 5号器 坏身	口、11.4 体、12.8 底、 高、4.2	受部は水平に細かく突出する。 立ち上り部は角縁的に内傾し、端部は斜めにつくる。	底部のヘラ削りは約何れを占める。 底部内面は内凹がめがたつ。	胎、密 焼、厚 色、灰色 他。

Tab. 25 出土土器観察表四

番号	遺器 器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
247 3 F67 P90	Ⅲ 区 2号 環身	口. 12.0 体. 14.6 底. 高.	受部は水平で、立ち上り部は湾曲しながらのびる。 肩部は内傾し、つくりはシャープである。	底部のヘラ削りは5%以上を占める。 ロタロ回転は逆時計まわり。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰白色 地. 外面は灰をかぶる
248 1 F67 P90	Ⅲ 区 2号 環身	口. 12.0 体. 14.6 底. 高.	247と同じ特徴をもつ。 立ち上り部は中位で湾曲しているがより直線的である。	全体にシャープなつくりをなす。 底部のヘラ削りは5%以上を占める。 ロタロ回転は逆時計まわり。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 黒灰色 地. 外面は灰をかぶる
249 2 F67 —	Ⅲ 区 1号 環身	口. 13.0 体. 15.6 底. 高.	水平に突出する受部に再曲してのびる立ち上り部がつく。	立ち上り部は内傾する。 底部のヘラ削りは5%以上を占めるが鋭利でない。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰白色 地. 外面は灰をかぶる
250 197 F67 —	Ⅳ 区 5号 環身	口. 13.2 体. 15.6 底. 高.	立ち上り部は細かく、肩部は断面方形でなく先細くなる。	底部のヘラ削りは不明。	胎. 密；砂粒少 焼. 堅緻 色. 灰白色 地.
251 181 F67 —	Ⅳ 区 5号 環身	口. 11.8 体. 14.0 底. 高.	底部を欠く小破片。 受部は小さく水平に突出する。 立ち上り部は内傾しながらのびる。	底部のヘラ削りは不明。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰白色 地.
252 251 F67 P90	Ⅴ 区 5号 環身	口. 11.4 体. 13.2 底. 高. 4.1	肩部は丸みを失い尖りざみ。 受部は小さく、立ち上り部は直線的にのびる。	底部のヘラ削りは5%を占める。 底部にはヘラ掻き記号。	胎. 密 焼. 堅緻 色. 灰白色 地.
253 1 F67 P90	Ⅵ 区 1号 環身	口. 11.0 体. 13.4 底. 高. 0.4	底部は丸みがある。 受部は水平でなく、立ち上り部は内傾し、肩部は丸くおさめる。	底部のヘラ削りは5%以下。 ロタロ回転は時計まわり。	胎. 密；小砂粒 焼. 普通 色. 灰白色 地.
254 5 F67 —	Ⅵ 区 1号 環身	口. 11.0 体. 11.2 底. 高.	肩部は垂直に立つ。 天井部はやや丸みをもつてあろう。	天井部のヘラ削り不明。 小破片のため修正困難。 肩部は横ナゲ調整。	胎. 密 焼. 良好 色. 灰白色 地.
255 241 F67 —	Ⅵ 区 1号 環身	口. 14.0 体. 13.0 底. 高. 3.5	肩部は長く、肩部内面は内傾する。 天井部は平直で、体部との境は小さく突出している。	天井部のヘラ削りは5%。 ロタロ回転は時計まわり。	胎. 密 焼. 普通 色. 灰白色 地.
256 122 F67 P90	Ⅵ 区 ビッド 環身	口. 15.8 体. 底. 高. 3.8	平坦な天井部に、やや外に開く体部がつく。 肩部内面はわずかに段をもつ。 体部と天井部は、にぎりが境がつく。	天井部のヘラ削りは5%。 天井部内面はナゲ仕上げ、他は横ナゲ。 ロタロ回転は時計まわり。	胎. 密；砂粒(3mm大) 焼. 良好 色. 暗灰色 地.

Tab. 26 出土土器観察表(6)

番号	遺器種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
257 190 F67 —	Ⅳ 区 5号溝西 環蓋	口、13.6 径、 底、 高、	体部は平で外に溝き縁部は大きくおまる。 体部と大井部とは明確な境をなさない。 天井部は平出となるであろう。	大井部はヘラ削り。 体部横ナブ調整。 口は時計まわり回転。	胎、密 染、堅硬 色、灰色 地。
258 10 F67 P90	Ⅱ 区 環蓋	口、11.6 径、 底、4.3 高、	大井部は球形に近く、そのまま口縁へ傾く。 口縁部は丸みをもち、内面でおずかに反曲している。	大井部のヘラ削り痕は不明瞭。 口縁部は回転横ナブ、大井部内面はナブ調整。 天井部にはヘラ抜き記号があるが不鮮明。	胎、密 染、良好 色、灰白色 地。全体に磨耗
259 221 F67 P90	Ⅴ 区 杯蓋	口、 径、 底、 高、	259、260は小破片のための杯蓋か 杯身が明らかでない。 ヘラ抜き記号は、2本の縁が見られ、細く浅い。	外面はヘラ削り。 内面は1個ナブ調整。	胎、密 染、軟弱 色、外：灰色 内：赤灰色 地。
260 4 F67 P90	Ⅲ 区 杯蓋	口、 径、 底、 高、	ヘラ抜き記号は、3本の平行する線。	内面はナブ仕上げ。	胎、密 染、良好 色、明赤灰色 地。
261 195 F67 P90	Ⅴ 区 環	口、 径、7.2 高、	高台は断面曲線形で、体部と底部との境に貼り付けている。	体部・高台部は回転横ナブ。 内底部はナブ仕上げ。 体部への移行は間色があめだつ。	胎、密 染、少 色、灰白色 地、 灰色 地。
262 6 F67 —	Ⅲ 区 杯	口、 径、8.0 高、	断面方形の麻倉にヘラ形に貼り付ける。 底部と体部の境は丸みがあり明瞭な境をなさない。	内外面とも回転横ナブ。 表面ざらつく。	胎、密 染、良好 色、灰色 地。
263 219 F67 P90	Ⅵ 区 5号溝 環	口、 径、9.2 高、	高台は断面方形で、外縁部は上方に小突起突出し、内縁部で緩地する。 体部は彎曲しながらのびる。 口は時計まわり。	体部は内外面とも回転横ナブ。 内底部はナブ仕上げ。	胎、密 染、普通 色、灰色 地。
264 173 F67 P90	Ⅳ 区 5号溝 環	口、13.4 径、8.7 底、6.2 高、	器壁は均一でなく凹凸があめだち、口縁部もいびつである。 口は時計まわり。	外側は回転横ナブ。 底部は粗いヘラ削り。	胎、密 染、堅硬 色、灰色 地。
265 103 F67 P90	Ⅵ 区 壺	口、37.6 径、 底、 高、	外に大きく開く口縁部をなす。 口縁下に1条、中位に2条の文線を巡らす。 口縁部は断面方形で外傾する。	内外面とも回転横ナブ。 突帯下には横溝による波状文を巡らす。	胎、密 染、堅硬 色、赤褐色 地。磨耗丁寧
266 312 F68 —	Ⅶ 区 7号溝 瓶	口、 径、 底、 高、	瓶の把手部である。 把手は断面門形で、おずかに上方に彎曲している。	体部内面は上方向のヘラ削り。 把手はヘラによる盛形で体部へ挿入している。	胎、密 染、普通 色、赤褐色 地。外面に板付着

Tab. 27 出土土器観察表(7)

番号	遺器 構種	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
267 223 F68 —	Ⅲ 区 環	口、 体、 底、 高、 8.0	上部器の高台付環である。 高台は平型な底部に八字形に貼 り付けている。	全体に磨出し、調整痕不明。 高台部は貼り付け後に横ナデ調整 を加える。	胎、密；精良 焼、普通；やや軟質 色、淡黄茶色 地、全体磨光
268 226 F68	V 区 環	口、 体、 底、 高、 7.8	高台の断面は三角形に近く、は ほぼ垂直に貼り付けている。 高台と体部との間は丸みがあり 明瞭な境をなさない。	体部内外面と高台部は横ナデ調整。 内底部はナデ仕上げ。	胎、密；精良 焼、普通 色、茶褐色 地、
269 232 F68 P91	V 区 5号 高 柄	口、 体、 底、 高、 4.4	白磁の底部である。 胎色は灰白色で、高台部に施釉 されない。 見込み内底部は輪状に釉が欠き 取られている。	体部の釉には貫入は見られないが、 見込み内底部には貫入がある。	胎、密 焼、堅緻 色、灰白色 地、
270 240 F68 P91	I 区 南 部 磁 上 碗	口、 体、 底、 高、	白磁釉の口縁部小破片。 口縁部は折りかえして、玉縁状 をなす。	胎色は灰白色	胎、密 焼、堅緻 色、灰白色 地、胎土に黑色炭粒
271 252 F68 P91	Ⅵ 区 皿	口、 体、 底、 高、 11.0 5.6 3.1	白磁の皿で底部はややトド環と なる。	体部外面はやや凹凸がめだつ。 釉色は灰白色を呈する。 貫入、気泡ともにない。	胎、密 焼、堅緻 色、灰白色 地、貫入、気泡なし
272 231 F68 P91	V 区 5号 高 柄	口、 体、 底、 高、	青磁釉の小破片。 口縁部は丸みがあり、外面に輪 葉文が彫刻されている。	胎土の彫刻は緑釉でない。 胎色は茶褐色で細かな貫入がある。 胎土は黄白色を呈する。	胎、密 焼、堅緻 色、茶褐色 地、細かな貫入、気泡

Tab. 28 出土土器観察表(2)

## II 原深町遺跡から出土した木製遺物の樹種同定

九州大学 農学部 林 弘 也

松 本 昂

原深町遺跡<sup>1)</sup>では加工跡が認められる木製遺物37点が出上し、その内訳は農具7点、生活用具11点、建築部材19点であった。出土遺物の形状は「原深町遺跡」<sup>2)</sup>に詳細に報告されている。今回、福岡市教育委員会の依頼により、木製遺物37点について樹種同定を行なったので、その結果をとりまとめた。

樹種名は木製遺物からとった木材切片を光学顕微鏡で観察し、樹種名の明らかな標本プレバートと対照して同定した。検鏡用の切片は、遺物から切り出した1辺が数ミリメートルの立方体ブロックを包埋し、ミクロトームを用いて木材の3断面（横断面、放射断面、接線断面）の切片をこれら包埋ブロックから調製した。切片はプレバートされ、検鏡試料とした。

遺物のなかには木材の劣化が著しく、詳細な組織が検鏡できなかつたり、試料が少ないために十分なデータが得られなかったものもあった。このような遺物ではできるだけ種名に近い名称で表示するよう努めたが、属名で表示したものもあった。

同定結果はまとめて table 1 に示し、顕微鏡写真は Fig.1 ~ Fig.37 に示した。同定された樹種は針葉樹材が3樹種、遺物数4点。広葉樹材が15樹種、遺物数33点であり、広葉樹材が多く用いられる傾向を示している。広葉樹材のなかでもカン材製の遺物は11点もあり、最も多く用いられている。そのほかではクスノキ科の材が5樹種（バリバノキ、クスノキ属、クスノキ、シロダホ、ダンコウバイ）あり、遺物8点に使われていたのが目立った。

- 1) 所在地：福岡市西区大字原深町
- 2) 福岡市教育委員会の判定による。
- 3) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第71集

### 顕微鏡写真について

1. 写真の説明は次のように示されている。

写真番号	整理番号	樹種和名
Fig. 1	Material W 1	カシ

2. 写真は左から右に横断面、放射断面、接線断面の順に配列されている。
3. 写真の倍率は、横断面および放射断面が30倍、接線断面が72倍である。

Tab. 1 出土木製品一覧表

番号	出土区	遺構	用途	樹 種 名		法 量 (mm)			P.L.		
				和 名	学 名	長さ	幅	厚さ			
W1	V区	大溝	二又 継	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	473	170	18	1	
W2	V区	大溝	二又 継	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	286	60	14	1	
W3	II区	1号溝	一又 継	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	166	86	9	1	
W4	V区	大溝	二又 継	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	413	50	11	2	
W5	V区	大溝	二又 継	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	423	68	8	2	
W6	III区	7号溝	丸 ぶ り	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	312	124	18	2	
W7	III区	大溝	こ	テ	五葉マツ	<i>Pinus</i> sp.	415	135	125	3	
W8	V区	大溝	小	明	バコバシノキ	<i>Actinodaphne langifolia</i>	210	125	45	3	
W9	V区	大溝	手 斧 柄	カ	シ	<i>Hamamelis</i> sp.	622	150	28	3	
W10	V区	大溝	小	明	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	905	27	25	4
W11	V区	4号溝	小	明	ス	ギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	838	65	26	4
W12	V区	大溝	構?	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	201	76	29	4	
W13	V区	大溝	木	括	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	298	90	79	5
W14	V区	大溝	枠	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	339		88	5	
W15	V区	大溝	枠	ユズリハ		<i>Daphniphyllum</i> sp.	262	77	68	5	
W16	V区	大溝	枠	ス	ギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	1,068	91	72	6	
W17	III区	7号溝	建築部材	ヒ	ノキ	属	<i>Chamaecyparis</i> sp.	292	33	24	6
W18	V区	大溝	建築部材	クスノキ	属	<i>Cinnamomum</i> sp.	178	40	36	6	
W19	V区	大溝	建築部材	カ	シ	<i>Hamamelis</i> sp.	277	26	20	7	
W20	III区	1号溝	建築部材	チシノキ		<i>Ehretia</i> sp.	507	35	34	7	
W21	V区	大溝	建築部材	スダシ		<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>	1,132	50		7	
W22	V区	大溝	建築部材	ユズリハ		<i>Daphniphyllum</i> sp.	1,722	43	38	8	
W23	V区	大溝	建築部材	クスノキ		<i>Cinnamomum camphora</i>	2,326	72	77	8	
W24	IV区	大溝	楯	子	シイノキ	<i>Castanopsis</i> sp.	845	134	22	8	
W25	V区	大溝	建築部材	カ	シ	<i>Cyclobalanopsis</i> sp.	673	105	10	9	
W26	V区	大溝	建築部材	フサギタラ		<i>Euptelea polyandra</i>	669	87	12	9	
W27	V区	大溝	建築部材	カンボジュ		<i>Viburnum awabuki</i>	324	159	13	9	
W28	V区	2号堀	建築部材	カンボジュ		<i>Viburnum awabuki</i>	544	156	10	10	
W29	V区	大溝	上作台?	クスノキ		<i>Cinnamomum camphora</i>	489	157	106	10	
W30	V区	大溝	建築部材	シロダネ		<i>Neolitsea sericea</i>	771	255	87	10	
W31	V区	2号堀	建築部材	クスノキ		<i>Cinnamomum camphora</i>	600	167	19	11	
W32	IV区	大溝	臼	ク	リ	<i>Castanea crenata</i>	530	346		11	
W33	IV区	大溝	紡 錘 車	ムクノキ		<i>Aphananthe</i> sp.	径 66		17	11	
W34	III区	1号溝	枕	ダンコウバイ		<i>Lindera</i> sp.	551	138	28	12	
W35	III区	1号溝	枕	ダンコウバイ		<i>Lindera</i> sp.	584	111	19	12	
W36	III区	1号溝	枕(建築部材)	カンボジュ	属	<i>Viburnum</i> sp.	544	119	85	12	
W37	III区	1号溝	枕(建築部材)	シイノキ		<i>Castanopsis</i> sp.	531	121	65	13	

(南極同定結果をもとに方式が作製)

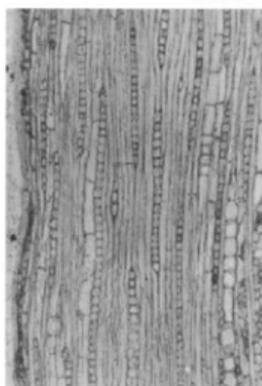
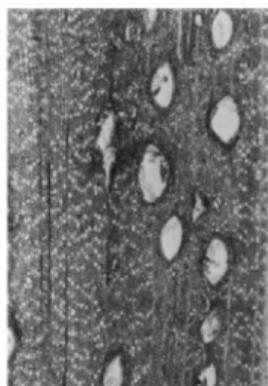


Fig. 1 Material W 1 カシ

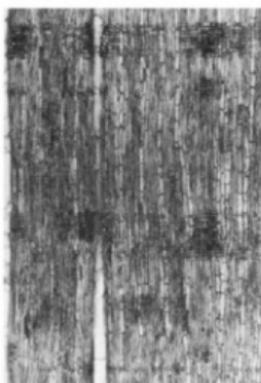
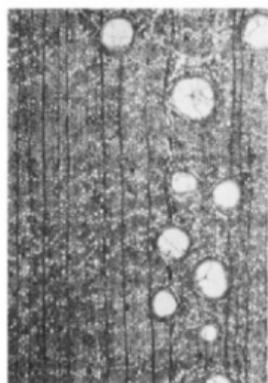


Fig. 2 Material W 2 カシ

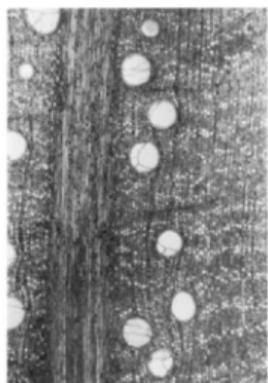


Fig. 3 Material W 3 カシ





Fig. 4 Material W 4 カシ

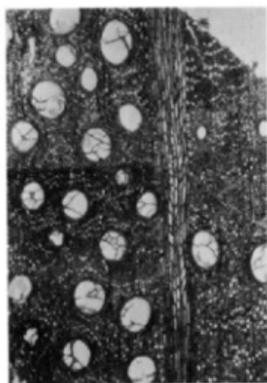


Fig. 5 Material W 5 カシ

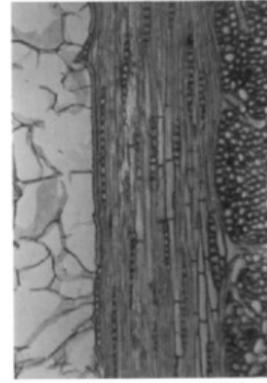
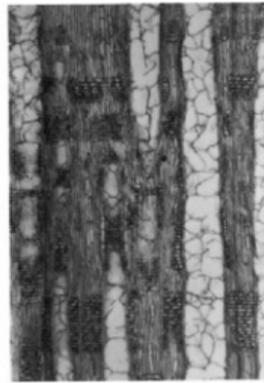
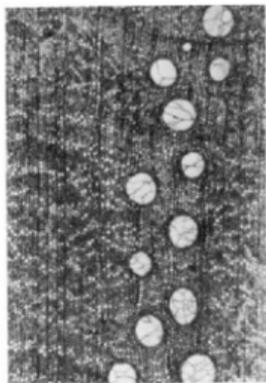


Fig. 6 Material W 6 カシ



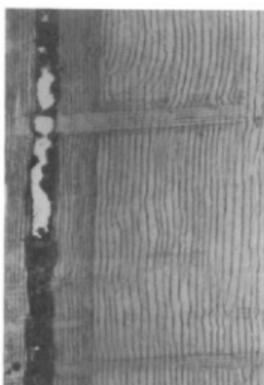
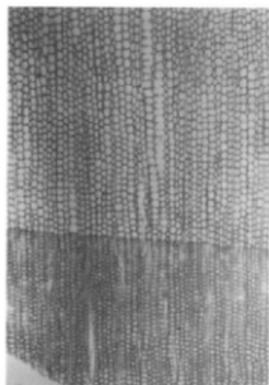


Fig. 7 Material W 7 五葉マツ

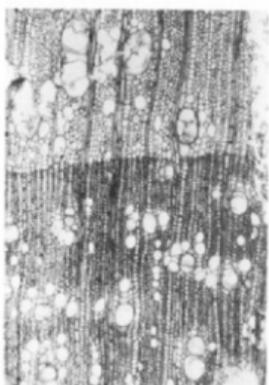


Fig. 8 Material W 8 バリバリノキ

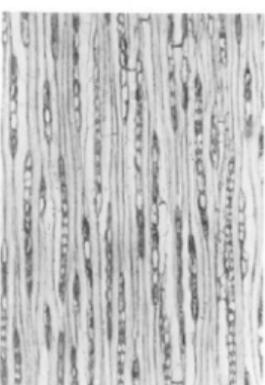


Fig. 9 Material W 9 マンサク



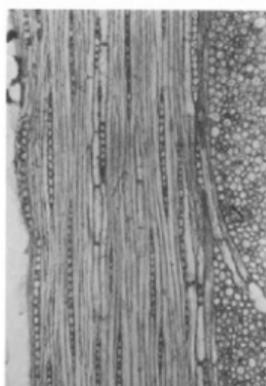
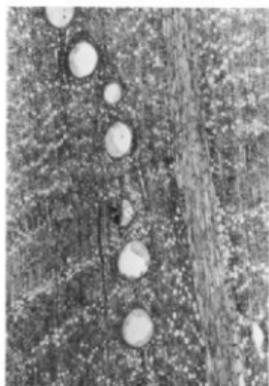


Fig.10 Material W10 カシ

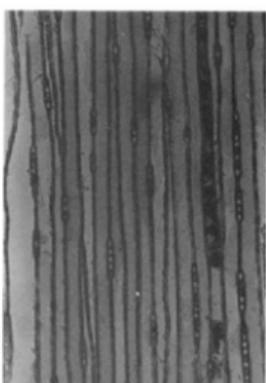
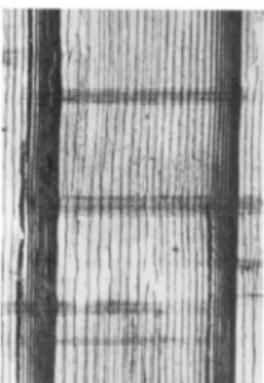
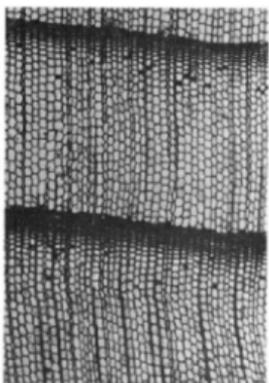


Fig.11 Material W11 スギ

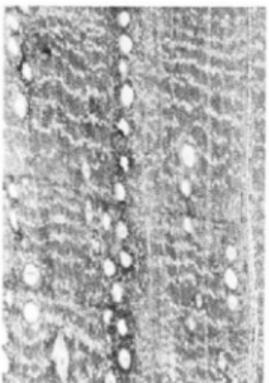


Fig.12 Material W12 カシ



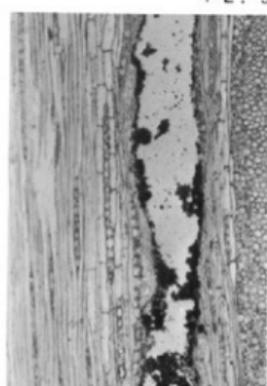


Fig.13 Material W13 カシ

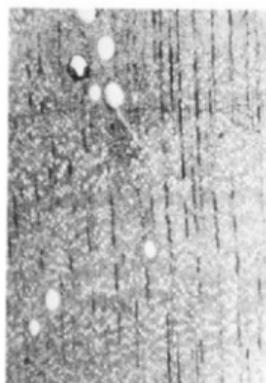


Fig.14 Material W14 カシ

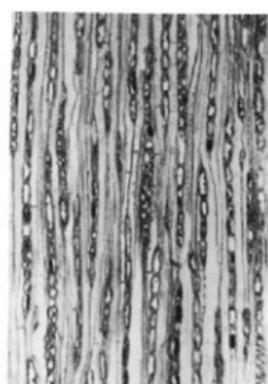
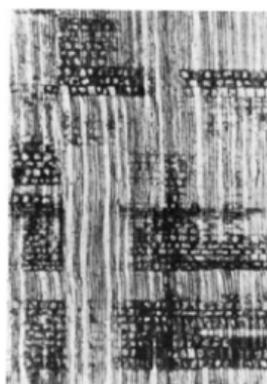
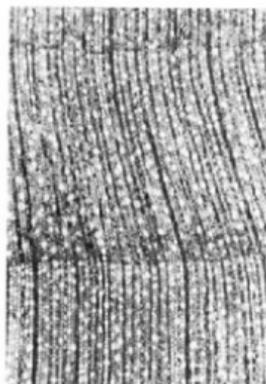


Fig.15 Material W15 ユズリハ



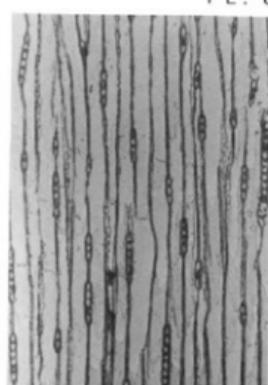
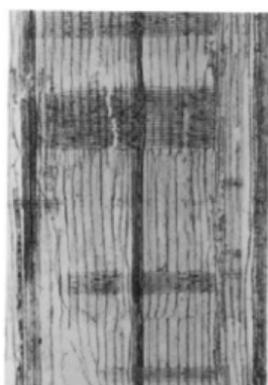
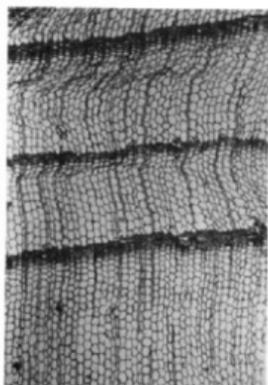


Fig.16 Material W16 スギ

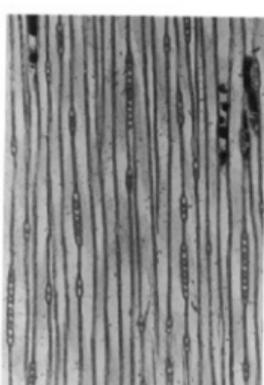
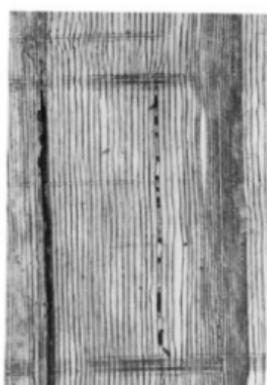


Fig.17 Material W17 ヒノキ属

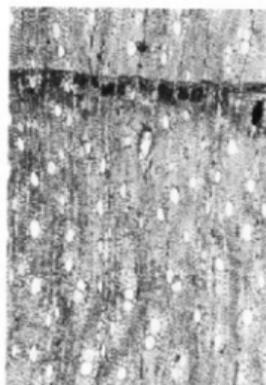


Fig.18 Material W18 クスノキ属



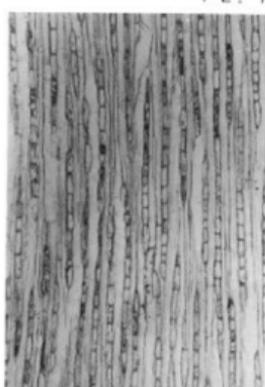
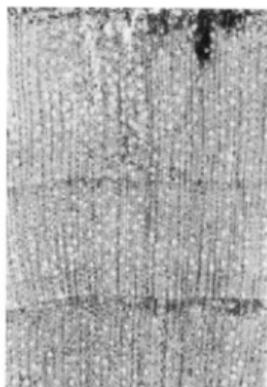


Fig.19 Material W19 マンサク

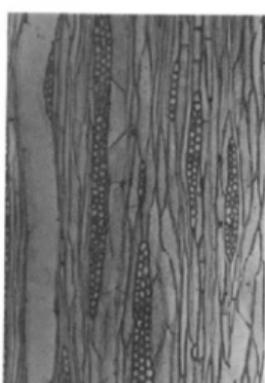
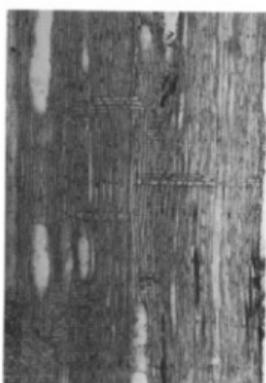
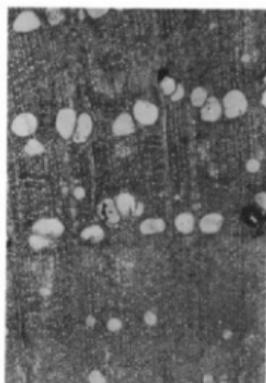


Fig.20 Material W20 チシャノキ

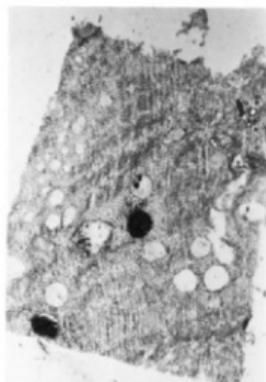


Fig.21 Material W21 スタジイ



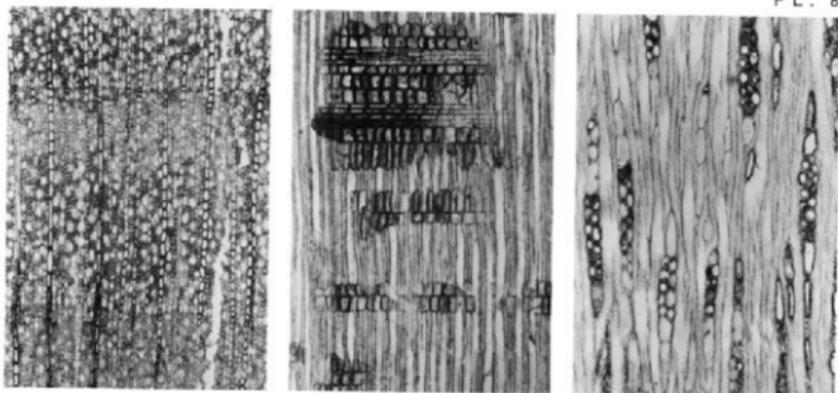


Fig.22 Material W22 ユズリハ

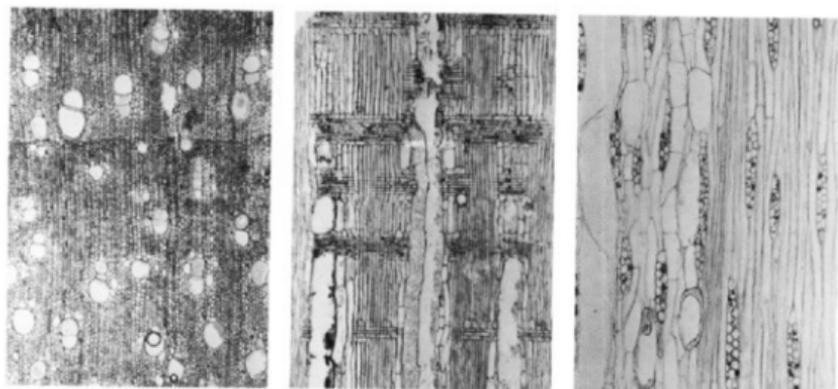


Fig.23 Material W23 クスノキ

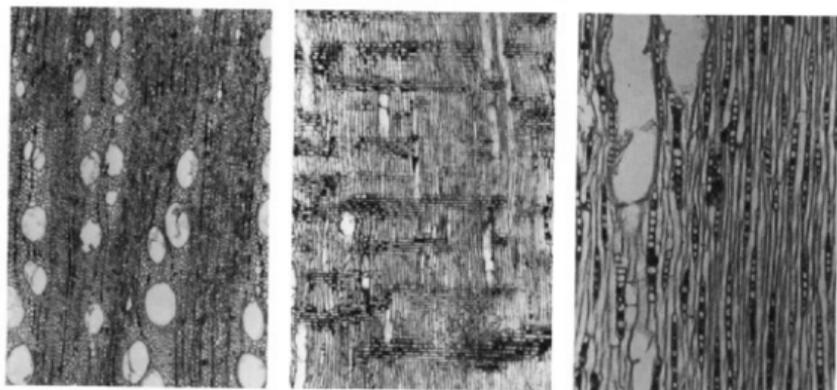


Fig.24 Material W24 シイノキ



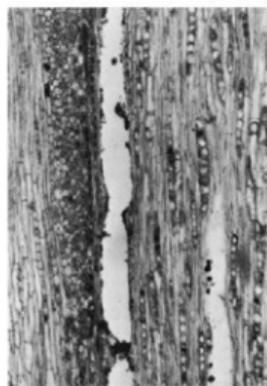


Fig.25 Material W25 カシ



Fig.26 Material W26 フサザクラ

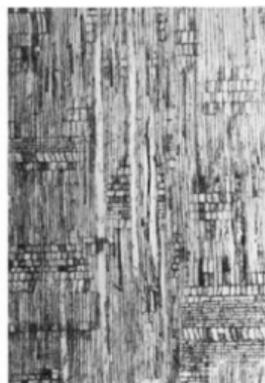
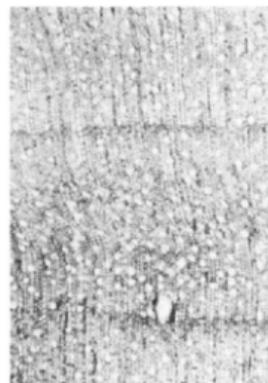


Fig.27 Material W27 サンゴジュ



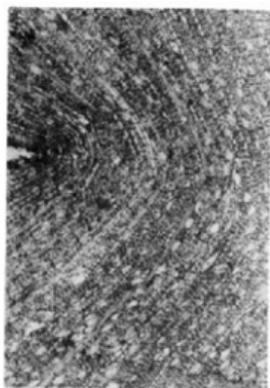


Fig.28 Material W28 サンゴジュ

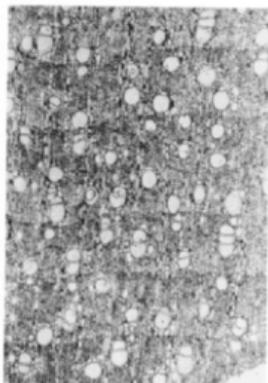


Fig.29 Material W29 クスノキ

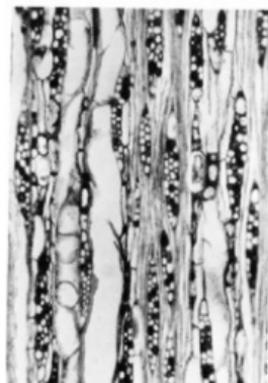
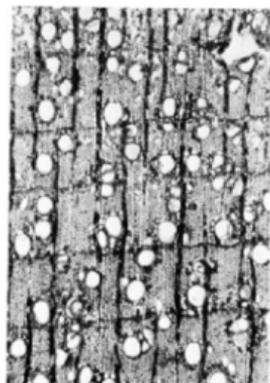


Fig.30 Material W30 シロダモ



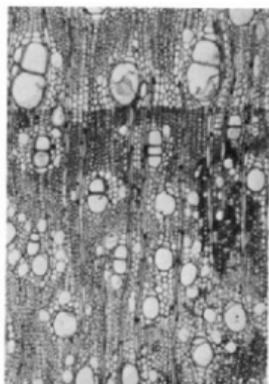


Fig.31 Material W31 クスノキ

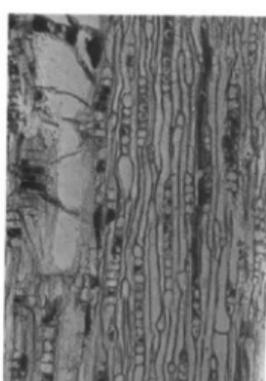
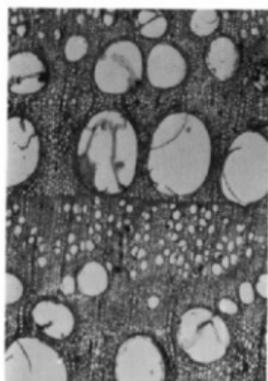


Fig.32 Material W32 クリ

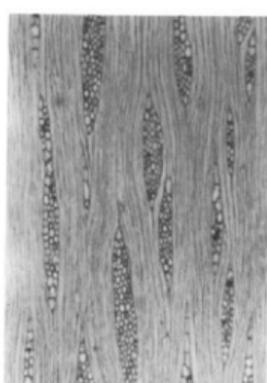


Fig.33 Material W33 ムクノキ



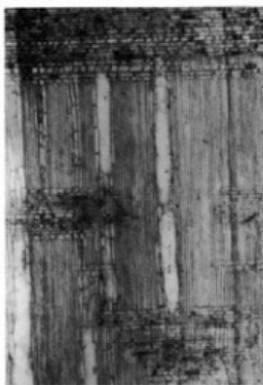
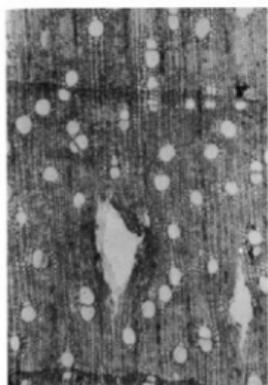


Fig.34 Material W34 ダンコウバイ

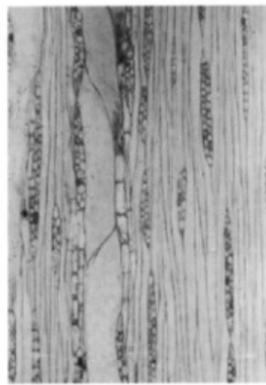
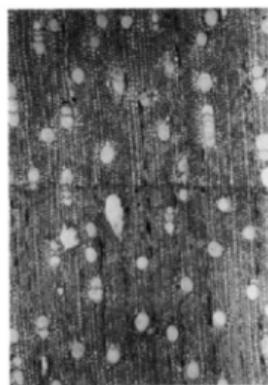


Fig.35 Material W35 ダンコウバイ

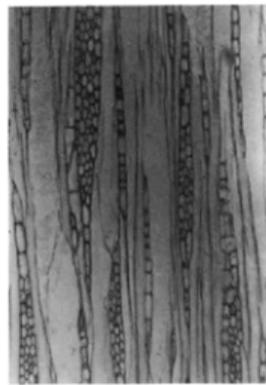
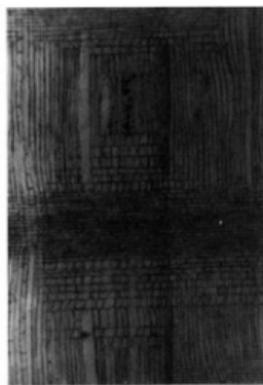
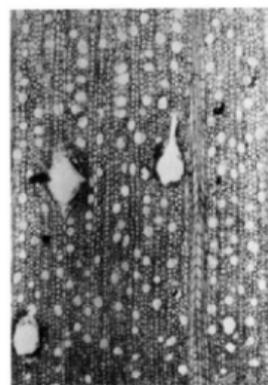


Fig.36 Material W36 サンゴジュ属



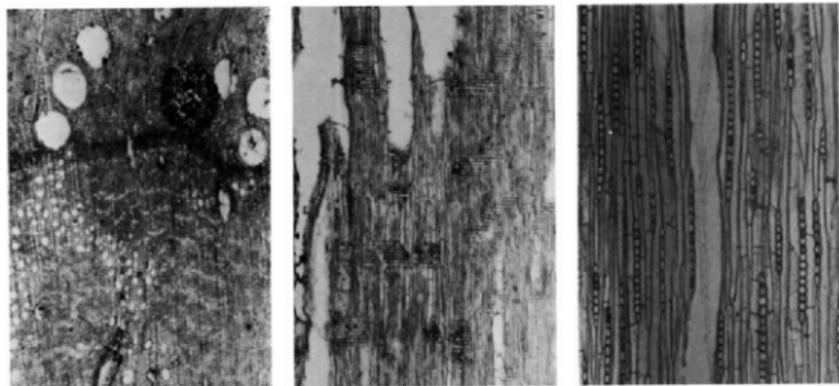


Fig.37 Material W37 シイノキ

福岡市西区  
窟深町遺跡

(別冊)

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第71集

©1982年3月31日発行

編集 福岡市教育委員会

発行 福岡市中央区天神一丁目7-23

電話 (福岡)711-4667(文化課)

印刷 (株)キューエツ福岡工場

福岡市博多区東比恵2丁目9番1号

電話 (福岡)411-8367(代表)

福岡市西区 塚塚町 遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第71集

1982

福岡市教育委員会